

大学機関別選択評価

自己評価書

平成27年6月

山口大学

目 次

I	大学の現況及び特徴	1
II	目的	3
III	選択評価事項B 地域貢献活動の状況	
1	選択評価事項B 「地域貢献活動の状況」に係る目的	7
2	選択評価事項B 「地域貢献活動の状況」の自己評価	
(1)	観点ごとの分析	
	観点B-1-①	9
	観点B-1-②	11
	I 地域の生涯教育及び文化活動への貢献	
	I-1 地域における生涯教育活動の推進	11
	I-2 地域の初等中等教育の質の向上	12
	I-3 地域の大学と連携した取組	14
	I-4 学術資産や情報通信技術を活用した情報発信	19
	I-5 学生等による地域貢献活動	22
	II 地域行政及び産業への貢献	
	II-1 地方自治体等との包括連携協定	24
	II-2 産学公連携による地域貢献	26
	II-3 地域との交流活動	29
	III 高度な地域医療の推進	30
	観点B-1-③	33
	観点B-1-④	38
(2)	目的の達成状況の判断	45
(3)	優れた点及び改善を要する点	45

I 大学の現況及び特徴

1 現況

- (1) 大学名 山口大学
 (2) 所在地 山口県山口市 (吉田キャンパス)
 山口県宇部市 (小串, 常盤キャンパス)

(3) 学部等の構成

学 部：人文学部，教育学部，経済学部，理学部，
 医学部，工学部，農学部，共同獣医学
 部，国際総合科学部

研究科：人文科学研究科，教育学研究科，経済学
 研究科，医学系研究科，理工学研究科，
 農学研究科，東アジア研究科，技術経
 営研究科，連合獣医学研究科

関連施設：大学教育機構（大学教育センター，ア
 ドミッションセンター，学生支援セン
 ター，保健管理センター，留学生セン
 ター），大学研究推進機構（産学公連
 携センター，知的財産センター，総合
 科学実験センター，研究推進戦略部，
 先進科学・イノベーション研究センタ
 ー），大学情報機構（図書館，メデ
 ア基盤センター，埋蔵文化財資料館），
 時間学研究所，大学評価室，地域未来
 創生センター

(4) 学生数及び教員数（平成27年5月1日現在）

学生数：学部 8,727人，大学院 1,587人
 教員数：911人，助手数：7人

2 特徴

本学は、3つのキャンパスからなり、本州西端の山口県の県庁所在地である山口市（人口約19万人）の吉田キャンパスと瀬戸内海沿岸地域で有数の工業地帯である宇部市（人口約17万人）の小串キャンパス及び常盤キャンパスに9学部9研究科を設置している。2015（平成27）年に本学の前身「山口講堂」の創設（1815（文化12）年）から200周年の節目を迎え、歴史と伝統を有する由緒ある地域の基幹総合大学として、さらなる教育・研究の発展・充実を目指しつつ、地域に根ざした社会連携を進め、アジア・太平洋圏において独自の特徴を持つ大学へと進化を続けている。

このような地理的条件と歴史的背景の下に、明治維新発祥の地に根付く「挑戦と変革の精神」を受け継ぎ、「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」の創造、共同・共育・共有精神の涵養及び公正・平等・友愛の尊重を基本理念として、地域社会や国際社会に貢献する人間力とチャレンジ精神を持つ人材を育成・輩出している。

学士課程では、幅広いリベラルアーツと世界に目を向けた協調と融和の人間力及び自主独立の精神を涵養する教育を行っている。平成25年度から全学部の1年生に共通教育科目30単位を必修とするカリキュラムを実施しており、全国の大学に先駆けて知的財産教育科目を必修化している。平成27年度には、9つ目の学部として、国際的な視野での問題解決能力を持ち、国内外の様々な分野で活躍する人材を育成する国際総合科学部を設置している。また、大学院課程では、研究活動を通して、学士課程で涵養された精神と見識をより深化させ、それぞれの領域において国際社会や地域社会に広く貢献する人材を育成する教育を行っている。

本学の特徴的な教育研究活動としては、人文学部・人文科学研究科の異文化交流・研究、東アジア研究や山口県の歴史と文化を学問的に解明する「やまぐち学」の実施、教育学部・教育学研究科の「ちゃぶ台方式」による教育現場、大学教員及び学生の協働型教職研修の実施、経済学部のTOEICを活用した英語教育や公認会計士・税理士の育成を目的とした教育の実施、理学部の電波望遠鏡を用いた宇宙電波観測や生物共生と機能獲得に関する研究の実施、医学部・医学系研究科の国際性のある研究マインドを持った医師・研究者の育成を目的とした取組の実施、工学部・理工学研究科の東南アジア・東アジアで活躍する技術系グローバル人材の育成を目的とした取組の実施、農学部・農学研究科の産学公が連携した新しい農産物の栽培技術の開発や中高温機能性微生物を利用した世界水準の教育研究の実施、共同獣医学部・連合獣医学研究科の大学間の密接な連携による国際水準の獣医学に関する教育研究の実施などが挙げられる。なお、技術経営研究科は、西日本唯一の技術経営（MOT）分野の専門職大学院であり、西日本地域の技術経営者の養成に重要な役割を果たすとともに、東アジア・東南アジアにおける技術経営者の養成にも貢献している。特に、東アジア研究科は、東アジアに関する人文科学、教育学、経

経済等の幅広い人文社会科学の教育研究分野で構成しており、本学の地理的環境、研究の蓄積及び国際交流の経験に基づいて、東アジアを深く理解し敬愛する指導的高度専門職業人を養成することを目的とした国内でも数少ない研究科である。

さらに、時間学研究所は、多くの学問分野の連携により時間に関する研究を総合的に行い、その成果を社会に還元することを目的として設置され、文理融合による新たな学際分野を研究する世界的にも類を見ない研究所である。

これらの特徴的な教育研究活動を、教育、学生、留学生交流等を総合的に支援する大学教育機構、研究基盤・研究環境の整備、研究支援等を行う大学研究推進機構、大学情報及び情報基盤を総合的に整備する大学情報機構等の全学教育研究施設をはじめ、地域未来創生センター、各学部の附属教育研究施設等が支えている。

II 目的

1 本学の基本理念・目的

学則において、本学の理念及び目的を次のように定めている。

【本学の理念及び目的】

本学は、「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を理念に、地域の基幹総合大学及び世界に開かれた教育研究機関として、たゆまぬ研究及び社会活動並びにそれらの成果に立脚した教育を実践し、地域に生き、世界に羽ばたく人材を育成することを目的とする。

大学院学則において、大学院の目的を次のように定めている。

【大学院の目的】

本大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。

また、「山口大学憲章」を掲げ、学生と教職員が一体となって、理念の共有と目標の実現を目指している。「山口大学憲章」において、基本理念及び教育・研究の目標を次のように定めている。

【基本理念】

(1) 「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」の創造

私たち山口大学は、21世紀の多様な課題を「発見し・はぐくみ・かたちにする」、豊かな「知の広場」を創り出します。

私たち山口大学は、この「知の広場」において、自らの役割と実績とを不断に評価しつつ英知の創造をめざします。

(2) 共同・共育・共有精神の涵養

私たち山口大学は、共に力を合わせ、共に育み合い、共に喜びを分かち合います。この共同・共育・共有の精神を“山大スピリット”として涵養します。

(3) 公正・平等・友愛の尊重

私たち山口大学は、“山大スピリット”による他者への配慮と自らを律する倫理観のもとに、あらゆる偏見と差別を排し、公正と平等と友愛の精神を尊重します。

【教育の目標】

(1) 専門性と社会性の育成

私たち山口大学は、地域の基幹総合大学として、各学部・研究科の特性を活かし、個性あふれる専門性と社会性に富んだ人材を育みます。

(2) 自己啓発・自己研鑽・自己管理の徹底

私たち山口大学は、自己啓発・自己研鑽に努め、自己管理能力を身につけた人材を育みます。

(3) 知識社会に応える能力の醸成

私たち山口大学は、地域社会および国際社会の発展と平和の実現に貢献するために、21世紀の知識社会における課題探求と問題解決の能力を持った人材を育みます。

【研究の目標】

(1) 先進的な研究を社会に還元

私たち山口大学は、基礎的・学術的研究および社会が直面する課題の克服と解決に役立つ研究を重視し、総合大学の特性を活かし、先進的かつ長期的な視野に立った研究を進め、その成果を社会に還元します。

(2) 学際的な研究体制の構築

私たち山口大学は、人文科学、社会科学、自然科学、生命科学などの学問分野の独自性を尊重しながら、これら諸分野の連携を通して、21世紀の時代にふさわしい学際的な研究体制を構築します。

(3) 研究活動の透明性と説明責任の遵守

私たち山口大学は、研究者相互の交流を基盤に、山口大学を主体とする共同研究体制を構築します。その研究過程と研究成果は広く社会に発信し、説明責任を果たします。

【私たちの責務】

(1) 新たな価値の創出

私たち山口大学は、人間と人間、人間と自然、人間と科学とが調和する新たな価値の創出をめざします。

(2) 社会が抱える問題解決への寄与

私たち山口大学は、20世紀の時代が繁栄と豊かさをもたらす一方で、自然環境の破壊や貧困・飢餓・戦争など、多くの社会問題が表出した時代であったことを認識し、21世紀の今日にあっては、これらの矛盾の解決のために英知と勇気を役立てます。

(3) 地域社会の発展と国際社会への貢献

私たち山口大学は、心豊かな教養人と優れた専門的知識・技術を持った人材を育み、地域社会の発展と国際社会の平和に貢献し、人類の幸福に寄与します。

2 学士課程の目的

上記本学の理念及び目的の下、各学部規則に次のように定めている。

(人文学部)

本学部は、人間及び社会の営み並びに文化の本質を理解することにより、豊かな人間性を持ち、自らの課題を発見・探求し、それを的確に表現できる人材を育成することを目的とする。

(教育学部)

本学部は、理論と実践の融合による人間育成という教育理念のもと、幅広い教養及び教育に関わる諸課題に対する教育研究を通して、教育に関する専門的理論と実践的指導力を兼ね備えた教員を養成することを目的とする。

(経済学部)

本学部は、自ら問いを見いだし、解決の方策を探求する能力及び意欲を持ち、世界及び社会に貢献し得る実践的経済人を育成することを目的とする。

(理学部)

本学部は、自然科学諸分野の教育研究を通して、幅広い教養及び自然科学分野の専門知識を修得し、論理的思考力及び柔軟な発想力を持ち、広い視点をもって、社会で活躍できる人材を育成することを目的とする。

(医学部)

本学部は、医学・医療の専門的知識及び技術の教授並びに豊かな人間性を涵養する教育を行い、人類の健康の増進に資する研究を推進し、社会・時代のニーズに応える高度な知識及び技量を「発見し」、「はぐくみ」、「かたちにする」人材を育成することを目的とする。

(工学部)

本学部は、学際的な教養並びに地球環境及び生産物に対する倫理観を持つ人材を育て、国際的に通用す

る技術者として社会に送り出すことを目的とする。

(農学部)

本学部は、人類の生存を支える安全な食料の効率的生産、生態環境の保全及び生物資源の機能開発のための高度な教育を行い、先端的研究を通じて、地域及び社会の発展に寄与するとともに、国際的に活躍できる人材を育成することを目的とする。

(共同獣医学部)

本学部は、国際水準の獣医学教育を体系的に創出・実践するとともに、深い知識と高度な技術を備えた専門性の高い獣医師を養成することを目的とする。

(国際総合科学部)

本学部は、現代及び近未来社会が直面する複合的で解決困難な科学技術が関与した諸問題に対し、科学技術及び国際社会に関する複眼的・総合的な理解・洞察に基づき、主体的・能動的に働きかけ、課題を適切に設定し、他者と協力して粘り強く探求し、解決策を提示できる人材を養成することを目的とする。

3 大学院課程の目的

上記本学の理念及び目的の下、各研究科規則に次のように定めている。

(人文科学研究科)

人文科学研究科は、人文科学全域及び専攻分野の研究を深化させ、高度専門職業を担うにふさわしい学識の涵養を目的とする。

(教育学研究科)

研究科の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

- (1) 学校及び地域における教育課題に応じて、高い資質を有する学校教員及び地域社会の教育文化に貢献できる人材を育成する。
- (2) 学校及び地域社会の研究拠点として、関連諸科学と連携した統合的な教育文化の発展に貢献する。
- (3) 学術・教育・文化の交流拠点として、教育資源を広く地域に向けて開放し、地域社会の発展に寄与する。

(経済学研究科)

経済学研究科は、経済、経営、法律、観光等の社会科学の分野における高水準の教育研究を行うとともに、当該分野の高度専門職業人を養成することを目的とする。

(医学系研究科)

本研究科は、医学・生命科学領域において、時代にあった社会のニーズに対応するため、専門的な知識・技術並びに豊かな人間性及び高度な倫理観を培うとともに、学際的連携を通して健康の増進及び医学・生命科学の発展に世界的に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(理工学研究科)

本研究科は、理学及び工学の専攻分野における高度な教育研究を行い、当該分野の高度専門職業人を養成することを目的とする。

(農学研究科)

農学研究科は、総合的な基礎力に基づいた高度な専門知識と能力を備えた、豊かな人間性を持つ研究者、技術者を養成することを目的とするとともに、生物機能の開発・応用に関する技術を発展させつつ、各種資源と自然環境の保全・再生との調和を図り、豊かな社会の形成に貢献することを目的とする。

(東アジア研究科)

研究科は、東アジアを深く理解し敬愛する指導的高度専門職業人を養成することを目的とする。

(技術経営研究科〔専門職大学院課程〕)

本研究科は、科学技術及び企業経営の普遍的原理並びに最新の知識を統合し、イノベーションを持続的に創出するためのマネジメントの研究を行い、もって総合的・学際的な知識・教養・倫理観に立脚し、自身の課題並びに地域及び地球規模での資源の最適利用を考え、判断する能力を持つ人材を養成することを目的とする。

(連合獣医学研究科)

研究科は、獣医学に関する高度の専門的能力と豊かな学識を備え、かつ、柔軟な思考力と広い視野を持って、社会の多様な方面で活躍できる高級技術者及び独創的な研究をなし得る研究者を養成することにより、学術の進歩及び社会の発展に寄与することを目的とする。

Ⅲ 選択評価事項B 地域貢献活動の状況

1 選択評価事項B 「地域貢献活動の状況」に係る目的

(1) 「山口大学憲章」及び「明日の山口大学ビジョン」における本学の地域貢献の位置付け

本学では、平成19年2月に「山口大学憲章」を策定して、「私たち山口大学は、心豊かな教養人と優れた専門的知識・技術を持った人材を育み、地域社会の発展と国際社会の平和に貢献し、人類の幸福に寄与します」と掲げ、地域社会の発展と国際社会へ貢献することを責務として明記している。また、平成20年2月に、山口大学憲章の基本理念に基づき、平成32年(2020年)における本学の目指すべき将来像として、「教育」、「研究」及び「社会連携」の視点から、「明日の山口大学ビジョン」を策定した。「明日の山口大学ビジョン」においては、社会連携等に関する中・長期目標として「山口大学は、資質の高い教員や優れた医療人材など、様々な社会で活躍できる人材の養成・育成に加え、研究における国際連携の強化、先進医療の地域への提供、生涯学習及び産学連携など、教育、研究、医療、文化及び経済の各方面から、地域社会や国際社会との連携を軸に据えた活動を発展させていきます。本学は、地域の基幹総合大学として、また、アジア・太平洋圏において独自の特徴を持つ大学に進化することにより、教育・研究の成果を広く社会に提供するとともに、地域社会や国際社会との連携をかたちにし、社会の発展に寄与します」と方向性を示すとともに、具体的な活動目標を次のとおり定めている。

【地域の教育・文化の発展への寄与】

- ・本学の地域課題に関する教育研究機能を生かし、教育・文化、医療・福祉、生活・環境、防災・安全、及び各種の地域政策や産業などの分野で、様々な取り組みを行う地域の諸団体と連携して、地域の期待に応える連携事業を進める大学としてさらに力を尽くします。
- ・公開講座及び開放授業等の実施・拡大、地域の諸団体と共催するフォーラムの開催などを通じて、地域住民が抱く大学との距離感をさらに縮め地域の中で存在感がある大学としてその連携活動を強化します。
- ・すでに実施している県や市町村などの地方自治体との包括的な連携協定、公設試験研究機関との組織的な連携協定を一層発展させ、ゆるやかな連携の枠を越えた人材交流機会の増大、互いの管理する施設・設備の相互運用の拡大などを実現し、高い水準の連携事業を展開します。
- ・大学の教育研究機能を生かして行う地域研究に関する連携事業、大学教員のもつ高度な専門知識の提供、地域の初等・中等教育を巡る諸課題への対応、地域社会に参画するための学生の自主活動への積極支援などを通じ、大学の教職員・学生と地域との“共育”を進めていきます。

【研究連携と地域イノベーションの推進】

- ・人文・社会科学分野における地域の歴史研究、文化研究、経済研究などの成果、理工学分野における地域の自然研究、防災、インフラ整備と保守、環境の保全・復元、医学・保健学分野における地域中核医療の提供、住民の健康増進、農・獣医学分野における農林水産業の再生、食の安全、高度獣医療の提供など、様々な研究連携をさらに推し進めていきます。
- ・地域イノベーションの推進のため、大学におけるプラットフォーム機能を強化し、研究成果を地域産業界で活用することにより、産学連携を強化していきます。

【地域医療の充実】

- ・卒前・卒後・生涯教育を通じ、質の高い医療従事者の育成や地域医療を支える人材を育成します。
- ・中国地方の中核医療拠点として難治性疾患の治療やQOL (Quality of Life) 向上のための先進医療を提供します。
- ・高度救命救急医療、がん治療、生活習慣病の予防・治療などの拠点として、地域医療に貢献します。

【高度獣医療の提供】

- ・動物医療センターを中心に、西日本における拠点二次診療施設として、脳神経疾患や腫瘍性疾患などの分野における高度獣医療を提供します。

【社会連携及び国際化のための組織・体制の充実】

- ・地方公共団体との連携により，地域再生に貢献するとともに，社会のニーズと大学のシーズの適合を目指し，地域貢献・社会連携及び国際化のための拠点形成と，組織・体制の充実を図ります。
- ・民間企業や公益法人等との連携を推し進め，「国際協力の里」ネットワークを実質化して，開発途上国に対して先端技術や伝統技術等を提供する場を構築するとともに，国際協力事業を積極的に行います。
- ・「大学コンソーシアムやまぐち」の中心的役割を担う機関として，コンソーシアムが取り組む活動を積極的に支援します。

2 選択評価事項B 「地域貢献活動の状況」の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点B-1-①：大学の地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

【観点到る状況】

「山口大学憲章」(資料B-1-①-1)及び「明日の山口大学ビジョン」(資料B-1-①-2)の実現に向け、「第2期中期目標」に基づき、「第2期中期計画」(資料B-1-①-3, 資料B-1-①-4)を策定し、社会との連携や社会貢献に関する目標と計画を定めている。また、中期目標・計画の具現化を進めるため、進捗状況を把握しながら、「年度計画」(資料B-1-①-5)を立て、地域貢献活動を推進している。なお、第3期中期目標期間を迎えるにあたり、地域連携に関する目的を含め、新たに「明日の山口大学ビジョン2015」を策定した。

「山口大学憲章」や「明日の山口大学ビジョン」は、各種基本方針とともに、本学Webページで一体的に公表し、また、「山口大学要覧」等に掲載している。中期目標・計画及び年度計画は、学内主要会議を通じて、教職員へ説明し、業務実績報告書と国立大学法人評価委員会の評価結果とを併せて、Webページで公表・周知している(資料B-1-①-6)。

資料B-1-①-1：山口大学憲章

<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/18.html>

(出典：本学Webページ)

資料B-1-①-2：明日の山口大学ビジョン

明日の山口大学ビジョン	http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~kikakuka/mokuhyo/dai1ki/vision.pdf
明日の山口大学ビジョン2015	http://www.yamaguchi-u.ac.jp/library/user_data/upload/image/info/vision/asunodaigakuvision.pdf

(出典：本学Webページ)

資料B-1-①-3：第2期中期目標(抜粋)

<p>3 その他の目標</p> <p>(1)社会との連携や社会貢献に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の様々なセクター(大学, 行政機関, 民間機関, 企業団体, 市民団体)などとの連携システムを活用して, 地域の文化・経済活動の維持・発展や地域イノベーションを指向する総合的な地域活動を行い, 多様な成果を生み出す。 ・地域社会との連携・協力を推進し, 地域の知の拠点として学術成果情報の発信と支援を行う。 <p style="text-align: center;"><省 略></p> <p>(3)附属病院に関する目標</p> <p>【地域医療への貢献に関する目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口県の中核医療機関として, 山口県及び地域医療機関との連携を推進し, 地域に密着した高度な医療を提供する。

(出典：本学Webページ「第2期中期目標」http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~kikakuka/mokuhyo/dai2ki/tyuuki_mokuhyou2.pdf)

資料B-1-①-4：第2期中期計画（抜粋）

<p>3 その他の目標を達成するための措置</p> <p>(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の自治体、市民団体、博物館、企業、公私立大学等との連携体制を強化し、学内外の人材交流の機会を拡大させるとともに、多様な講座事業、連携協働事業、地域活性化支援事業を推進する。 ・地域発イノベーション創出に資する科学技術イノベーション人材の育成に取り組むとともに、地域の様々なセクターで機能する連携システムを活用して、地域の文化・経済活動の維持・発展や地域イノベーションを指向する総合的な地域活動を行い、多様な成果を生み出す。 ・教員免許状更新講習に係るニーズに応えるため、学内での教員免許状更新講習の実施体制・方法を確立するとともに、他大学や地方自治体と連携した取り組みを推進する。 ・大学で生産される学術成果(論文等)を電子的に保存し、学内外へ情報発信する学術機関リポジトリ事業を継続的に展開するとともに、地域の大学との連携による共同リポジトリ事業を進める。 ・大学情報機構(図書館、メディア基盤センター及び埋蔵文化財資料館)は、地域の教育関連施設との連携を強化し、ICTを活用した文化的な地域貢献活動の拡充を図るとともに、大学が所蔵する貴重な学術資産の系統的な保存及びび活用を図る事業を推進する。 <p><省 略></p> <p>(3) 附属病院に関する目標を達成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口県と連携したドクターヘリの導入等により先進救急医療センターの機能を充実し、県内の救急医療に貢献する。 ・地域医療機関との連携を強化し、県内のがん、肝疾患及び周産期医療の拠点病院として貢献する。

(出典：本学Web ページ「第2期中期計画」 http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~kikakuka/mokuhyo/dai2ki/tyuuki_keikaku2.pdf)

資料B-1-①-5：平成26年度年度計画（抜粋）

<p>3 その他の目標を達成するための措置</p> <p>(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネーターを配置し、地方自治体及び企業等との連携体制を整備し、連携事業を推進する。 ・地域との連携システム等を用いた、総合的な地域活動を展開する。 ・地方自治体との連携を強化し、地域活性化の取組を支援する。 ・平成25年度教員免許状更新講習の実施状況や事後アンケート等を踏まえ、講習の改善を図るとともに、山口県の基幹大学として、県教委及び県内他大学等と連携し、県内に必要な数と種類の更新講習を安定的に提供する。 ・学術機関リポジトリ「山口大学学術機関リポジトリ(YUNOCA)」、「山口県大学共同リポジトリ」、「維新(山口県遺跡資料リポジトリ)」の安定的な提供を継続するとともに、登録件数の向上を図る。 ・学術資産の系統的な修復・保存を継続するとともに学術資産データベースの登録作業を行い、試験的に公開する。 ・学内外の博物館、図書館及び教育関連施設との継続的な協働事業を通じて、連携強化を図るとともに、学術資産を広く学内外に公開する。 <p><省 略></p> <p>(3) 附属病院に関する目標を達成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口県内における救急医療体制を充実させるため、ドクターヘリのスタッフの教育を行う。 ・これまでの取り組みの効果を踏まえて、がん及び肝疾患の診療連携拠点病院並びに総合周産期母子医療センターとして、地域医療機関との医療連携強化を図る。
--

(出典：本学Web ページ「平成26年度年度計画」 <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~kikakuka/mokuhyo/dai2ki/h26keikaku.pdf>)

資料B-1-①-6：地域貢献活動に関する目的と計画の一体的な公表・周知

<ul style="list-style-type: none"> ・山口大学憲章 ・明日の山口大学ビジョン2015 ・中期目標・中期計画 ・年度計画 	<p>http://www.yamaguchi-u.ac.jp/info.html</p>
--	--

(出典：本学Web ページ)

【分析結果とその根拠理由】

地域貢献の基本的な目的を定める「山口大学憲章」及び「明日の山口大学ビジョン」の実現に向け、「中期目標」に基づき、「中期計画」及び「年度計画」を策定している。また、これらの目標や計画は、学内主要会議や山口大学要覧等を通じて教職員へ周知するとともに、他の関連情報とともに本学Web ページにおいて適切に公表している。

以上のことから、本学では、地域貢献活動の目的に照らして、計画や具体的方針が定められており、適切に公表・周知されていると判断できる。

観点B-1-②： 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

本学では、計画等に基づき、以下のような活動を行っている。なお、実施体制については、観点資料B-1-④に記述する。

I 地域の生涯教育及び文化活動への貢献

I-1 地域における生涯教育活動の推進

「公開講座」、「開放授業」及び「出前講義」については、本学の主要な社会貢献活動として位置付け、積極的に事業を推進している。「公開講座」は、地域社会の知的啓発に資することを目的とし、①知的好奇心に応える「専門教養講座」、②現代的課題に応える「知識・技術習得講座」、③地域振興の課題に応える「フィールド学習（現地体験型）講座」の三つの方式で行っている。「開放授業」は、正規授業を一般市民に開放し、受講後修了証書を授与している。「出前講義」は、生徒たちの高度な学習への意欲を引き出し、大学への関心を高めることを目的として、多様な講座を提供している（資料B-1-②-1）。

資料B-1-②-1：地域における生涯教育活動の推進

<公開講座・開放授業・出前講義の実施状況>

公開講座	http://www.ext.yamaguchi-u.ac.jp/chiki/koukaikouza.html
開放授業	http://www.ext.yamaguchi-u.ac.jp/chiki/kaihoujugyou.html
出前講義	http://www.ext.yamaguchi-u.ac.jp/chiki/demaekougi.html

（出典：本学 Web ページ）

<公開講座、開放授業及び出前講義の実績>

区分		平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	合計	5年間の 平均
公開講座	開設講座数（講座）	19	17	22	25	30	113	22.6
	参加者数（人）	529	475	570	703	693	2,970	594.0
開放授業	開放授業科目数（科目）	33	46	34	24	36	173	34.6
	参加者数（人）	98	121	119	43	71	452	90.4
出前講義	出前講義実施件数	71	71	61	64	52	319	63.8
	派遣教員数（人）	49	47	51	50	42	239	47.8

（出典：地域未来創生センター作成）

I-2 地域の初等中等教育の質の向上

県内の11大学・短大，山口県教育委員会等と連携・協力体制を構築し，小学校から高校の各教科に対応した幅広い内容の講習を開設し，「教員免許状更新講習」を実施している。

また，現職の高校・中学校教員対象の「サイエンス・リーダーズ・キャンプ」や高校生対象の「オープンセミナー」を開催し，高校との接続授業を提供している。小中高生に科学技術の楽しさを伝える「科学技術維新プロジェクト」や「ひらめき☆ときめきサイエンス」等を推進し，「サイエンスワールド」では，「サイエンスセッション U-18」を企画し，中高校生による科学研究発表を行っている。また，科学オリンピックの強化合宿として，県内の高校生及び教員対象の「やまぐちサイエンス・キャンプ」を実施している(資料B-1-②-2)。

資料B-1-②-2：地域の初等中等教育の質の向上

<教員免許状更新講習の実施>

**平成
27年度
山口大学**

**教員免許状
更新講習のご案内**



山口大学は、県内大学・短期大学（山口県立大学、梅光学院大学、徳山大学、下関市立大学、東亜大学、山口学芸大学、宇部フロンティア大学、山口東理科大学、宇部フロンティア大学短期大学部、山口芸術短期大学、岩国短期大学、以上順不同）、山口県教育委員会及び国立山口徳地青少年自然の家と連携・協力により必修領域5講習、選択領域92講習を開設します。

教員免許更新制について

修了(確認)期間の2ヶ月前までの2年間に、必修領域(教育の最新事情に関する事項)12時間、選択領域(教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項)18時間で計30時間以上の更新講習を受講・修了し、免許管理者(都道府県教育委員会)に更新講習修了(確認)の申請を行う必要があります。(教員免許更新制の詳細については、文部科学省のホームページをご覧ください。)

※山口大学では、必修領域は1講習12時間(1日6時間×2日間)、選択領域は1講習6時間(1日6時間)もしくは12時間(1日6時間×2日間)を開催します。

受講対象者について

教員免許状更新講習の受講対象者(講習を受講できる者)は、普通免許状又は特別免許状を有する方で、以下に該当する方です。

- (1) 現職教員(校長、副校長、教頭を含む。ただし、指導改善研修中の者を除く)
- (2) 実習助手、寄宿舎指導員、学校栄養職員、養護職員
- (3) 教育長、指導主事、社会教育主事、その他教育委員会において学校教育又は社会教育に関する指導等を行う者
- (4) (3)に準じる者として免許管理者が定める者
- (5) 上記に掲げる者のほか、文部科学大臣が別に定める者
- (6) 教員採用内定者
- (7) 教育委員会や学校法人などが作成した臨時任用(または非常勤)教員リストに登録されている者
- (8) 過去に教員として勤務した経験のある者
- (9) 認定こども園で勤務する保育士
- (10) 認可保育所で勤務する保育士
- (11) 幼稚園を設営する者が設営する認可外保育施設で勤務している保育士



なお、平成27年度の受講対象者は、下記の(表1)(表2)に該当する方です。

(表1)：教諭又は養護教諭の旧免許状(平成21年3月31日までに授与された免許状)を所持する方

受講対象者の生年月日	最初の修了(確認)期限
昭和35年4月2日～昭和36年4月1日 昭和45年4月2日～昭和46年4月1日 昭和55年4月2日～昭和56年4月1日	平成28年3月31日
昭和36年4月2日～昭和37年4月1日 昭和46年4月2日～昭和47年4月1日 昭和56年4月2日～昭和57年4月1日	平成29年3月31日

(表2)：栄養教諭の旧免許状(平成21年3月31日までに授与された免許状)を所持する方

受講対象者	最初の修了(確認)期限
平成18年3月31日以前に栄養教諭の普通免許状を授与された方	平成28年3月31日
平成18年4月1日から平成19年3月31日までに栄養教諭の普通免許状を授与された方	平成29年3月31日

(出典：平成27年度教員免許状更新講習リーフレット)

<中国・四国六大学教員免許状更新講習共同ホームページ>



(出典：Web ページ「中国・四国六大学教員免許状更新講習
共同ホームページ」<https://www.kousinkousyu.jp/chuusi-u/>)

<教員免許状更新講習の実施状況>

区分		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	合計	5年間の平均
必修領域	開設講習数(講習)	5	5	5	5	5	25	5.0
	受講者数(人)	750	859	834	756	763	3962	792.4
選択領域	開設講習数(講習)	89	95	96	92	94	466	93.2
	受講者数(人)	1918	2578	2500	2058	2004	11058	2211.6
合計	開設講習数(講習)	94	100	101	97	99	491	98.2
	受講者数(人)	2668	3437	3334	2814	2767	15020	3004.0

(出典：大学教育機構作成)

<小中高校生及び教員を対象としたイベント一覧>

教員免許状更新講習のシラバス	http://kyomen.jimu.yamaguchi-u.ac.jp/?page_id=742
農学部サイエンス・リーダーズ・キャンプ	http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/SLC/report2014.pdf
農学部オープンセミナー	http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/news/2015/06/post-46.html
長州科学維新プロジェクト	http://www.kagaku-ishin.org/info.php
農学部ひらめき☆ときめきサイエンス	http://www.yamaguchi-u.ac.jp/topics/2013/2947.html
理学部サイエンスワールド	http://www.sci.yamaguchi-u.ac.jp/sci/events/sw/history
理学部やまぐちサイエンス・キャンプ	http://www.sci.yamaguchi-u.ac.jp/sci/info/news/2013/pnpx3h

(出典：本学 Web ページ等)

＜小中高生及び教員を対象としたイベントの実施状況＞

名称 日時 対象,参加者数	概要
サイエンス・リーダーズ・キャンプ 成 26 年 8 月 5 日～ 平成 26 年 8 月 8 日 高校・中学校教諭対象, 20人	山口大学農学部では、生態系、生物個体、細胞、DNAやタンパク質分子などスケールの異なる研究対象を取り扱っています。本プログラムでは、この研究の特色を生かし、参加者にスケールの異なる視点で「自然」を可視化する技術および解析する手法を体験してもらい、特に、生物試料の解析を通じて、理科4教科にまたがる知識を動員し、相互の関連性について認識してもらい、食料生産科学・生命科学・環境科学を網羅する農学に関連付けることで、応用を意識しつつ取り組むことを目的としました。また、合宿で参加者自身が作成した画像ファイルだけではなく、本学部の研究・人的資源を活用して作成した「画像・動画コンテンツ」を利用し、授業等に反映させ「理数系に興味関心を持ち、理数系分野への進路を考えている生徒」の動機付けに資する指導能力の向上も目的としました。
農学部オープンセミナー 平成26年8月26日 高校生対象,23人	農学部オープンセミナーは、高校で学習する生物と化学の基礎知識から出発し、農学部の専門的領域に足を踏み入れる接続授業です。農学部教員が講義し、実験を指導します。 高校生の定員は15です。対象は高校1年生以上で、各校3名以内とさせていただきます。これ以外に、引率教諭・ご父兄等のご参加も、5名まで可能です。申し込み書に、一緒にご記入ください。 本年度のテーマ「植物工場での野菜の栽培を科学する光環境制御で品質と育成スピードは変化する？」 植物工場とは、植物の成長に必要とされる光、水、養分、二酸化炭素などの供給を厳密に制御することで、天候や場所にと左右されず、計画的に連続して植物を育てる施設です。農学部では、LED照明技術等を植物工場での薬物野菜生産へ応用することを目指し、各種野菜を用いて小型人工気象器や植物工場での各種栽培試験を実施しています。本セミナーでは、その内容を詳解いたします。
ひらめき☆ときめき サイエンス 平成25年8月4日 高校生対象20人	平成25年8月4日(日)、本学農学部で高校生を対象とした植物工場での最先端の植物研究を紹介する行事「ひらめき☆ときめき サイエンス」植物工場～種をまく、野菜を測る、成分を調べる、収穫して味わう～を、前年度、前々年度に引き続き開催しました。「ひらめき☆ときめき サイエンス」とは、科学研究費補助金(KAKENHI)で得られた研究成果について、小中高生生の皆さんが「直に見る・聞く・ふれる」ことで、科学の面白さを感じてもらった実習体験型プログラムです。 山本晴彦教授(農学部)、荊木康臣教授(農学部)による講義や最新の植物工場実証施設(第二植物工場)を用いた体験型の実習が行われ、実習は単なるデモ的な体験だけではなく、植物工場用LED照明の分光測定、植物工場での野菜の播種・収穫作業などの実習、水耕養液のバッグテストによる簡易元素分析の体験、光合成やクロロフィル蛍光の測定と測定値の記録、さらにはパソコンを使用して測定結果のグラフ化解析を行うなど、一連の実験・実習の流れを体験する実践的なものであり、参加した高校生にとっては貴重な体験となるものでした。 本行事の昼食では収穫した野菜を試食したり、クッキータイムでは高校生と本学教員、大学院生・学部学生とのフリートークの時間が設けられ、高校生にとっては貴重な話を聞くことができ、日常では体験することができないさまざまな体験をすることができた非常に有意義な行事となりました。
サイエンスワールド2014～不思議と驚きのサイエンス・ショー～ 平成26年10月19日 一般市民対象, 1034人	山口大学理学部では、県内外の高等学校、科学館・博物館、研究機関と連携し、小・中高生のみならず広く地域の皆様に、自然科学の魅力を楽しく判り易く伝えることを目的に、「サイエンスワールド」を毎年開催しております。 今回で第16回目の開催となる「サイエンスワールド2014～不思議と驚きのサイエンス・ショー～」は、10月19日(日)学生食堂きらら・大学会館・理学部本館にて開催し、非常に多くの方にご来場頂きました。総来場者数は1034名で、これまでの最高来場者を記録した2011年の975名を上回ることができました。まさに大盛況！会場では子供たちの沢山の笑顔があふれていました。スタッフ一同、喜んでおります。 スーパーボール、指紋検出、化石レプリカ、ボンボン船、液状化現象、竜巻再現などなど…、屋内・屋外で楽しい企画がありました。全ての企画が盛況であり、ご来場下さった皆様楽しんで頂けたと思います。 また中・高校生による科学研究発表「サイエンスセッション18」では、島根県立浜田高等学校の『ハッチョウトンボの生態調査2～秘めたる力生き残り懸けた戦略～』が最優秀賞を受賞しました。 今回のサイエンスワールド2014では、慶應義塾大学 大木聖子(おおき さとこ)准教授による特別公開市民講座『いつか必ず起こる大地震から命を守るために』が行われ、幅広い年齢層の市民が参加し、聴講しました。 大木先生の自己紹介から始まり、地震の発生メカニズム、大木先生自身が行っている幼稚園や小・中学校に赴いての防災教育についてなど、幅広い内容でご講演頂きました。講演終了後も、参加者から多くの質問が寄せられていました。

(出典：本学Web ページ等)

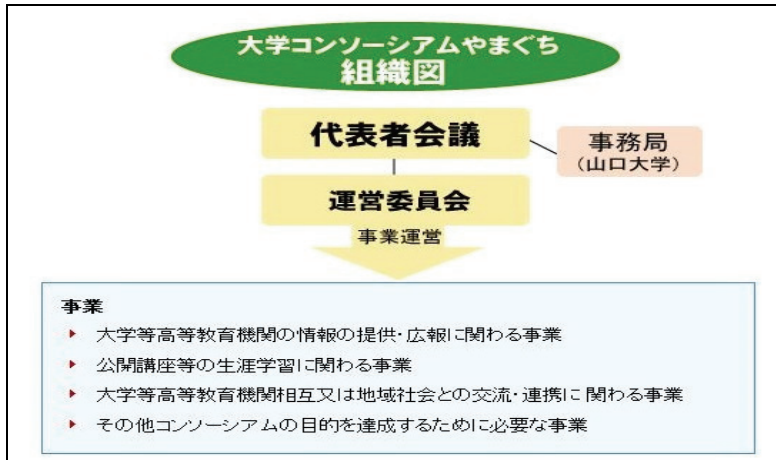
I-3 地域の大学と連携した取組

「大学コンソーシアムやまぐち」は、県内の高等教育全体の質的向上と地域へ貢献することを目的に18年度に設置され、県内12大学が加盟し、本学に事務局を置き、積極的に事業を推進している。県内大学と連携した「山口県大学ML(Museum・Library)連携事業(I-4参照)」, 県内全留学生を対象とした「留学生就職支援フェスタ・イン・山口」や各種研修やセミナー等を実施している。24年度に「大災害時代における大学の果たす役割」をテーマにシンポジウムを開催し、25年度に事業継続計画(BCP)の実際と地域の地震環境について学ぶ、「BCP作成研修」を行った。26年度には、FD・SD講演会「障害者差別解消法施行に向け、大学としての対応を考える」及びSDセミナー2014「大学職員の企画力が大学を変える」を開催した(資料B-1-②-3)。

資料B-1-②-3：地域の大学と連携した取組

＜大学コンソーシアムやまぐち組織・構成機関等＞

＜＜組織図＞＞



＜＜構成機関(平成27年4月1日現在)＞＞

大学名			大学名		
1	山口大学	国立	7	徳山大学	私立
2	下関市立大学	公立	8	梅光学院大学	私立
3	山口県立大学	公立	9	山口学芸大学	私立
4	宇部フロンティア大学	私立	10	山口東京理科大学	私立
5	至誠館大学	私立	11	水産大学校	独立行政法人
6	東亜大学	私立	12	放送大学山口学習センター	私立

(出典：大学評価室作成)

＜留学生就職支援フェスタ・イン・山口の開催状況＞

第6回 留学生就職支援フェスタ・イン・山口

日時：2013年8月8日(木) 10:00～15:00
会場：山口大学・大学会館

第1部 参加企業プレゼンテーション (外国人の雇用状況や外国人の就労状況に特化)

10:00～12:00

- 東洋鋼板株式会社**
鉄を中心として、非鉄、樹脂等を精密加工する素材メーカー。中国、マレーシアでのビジネスを展開中のグローバル企業。
- 株式会社伊藤園**
「お茶で日本を美しく」の基本理念のもとに日本各地の環境保全に寄与する飲料メーカー。東南アジアでも事業展開中。
- パナソニック株式会社**
グローバルにチャレンジしているエレクトロニクスメーカー。企業のキャッチコピーは“ideas for life”。

《休憩》 12:00～13:00

第2部 個別面談 13:00～15:00

個別面談：参加留学生と参加企業との個別面談を各ブースで行ないます。

(出典：「留学生就職支援フェスタ・イン・山口」のポスター)

＜大学コンソーシアムやまぐちによるシンポジウム FD・SD 研修開催状況＞

年度	名称	開催日		参加 大学数 又は 対象 者	参加者 数
平成22年度	FD講演会「九州工業大学における学生の達成度評価手法と学修自己評価の取組」	平成22年8月10日	この講演会では、「学修成果自己評価シート」を用いた学生自身による学修・教育目標の達成度評価の手法について説明するとともに、学生にどのような意識の変化が起きてきたのか、この評価システムを稼働させるまでの経緯と実際の状況および課題について講演する。	本学教育職員ほか及び県内他大学関係者	55
平成23年度	FD講演会「ポートフォリオを活用した統合的修学支援：佐賀大学における取り組み」	平成23年8月10日	佐賀大学では本年度から学習ポートフォリオの導入が始まっている。今回の講演会では、「学修成果自己評価シート」を用いた学生自身による学修・教育目標の達成度評価の手法について説明するとともに、学生にどのような意識の変化が起きてきたのか、この評価システムを稼働させるまでの経緯と実際の状況および課題について講演する。	本学教育職員ほか及び県内他大学関係者	71
平成24年度	FD講演会「ポートフォリオを活用した学びのデザイン」	平成24年8月10日	島根大学教育学部では、4年間のカリキュラムにおける学びの過程を可視化するポートフォリオシステム(プロファイルシート)を用いている。学生全員が作成し、その作成はおよそ6週間をかけて行われる。本講演においては、その教育的効果や成果を述べるとともに、運用上の課題について報告する。	4	101
	「シンポジウム 大災害時代における大学の果たす役割」	平成24年8月21日	本シンポジウムでは、大災害の体験者を交えて、来たる大災害に備えて大学としてどのような備えをし、社会に対して役割を果たすべきかについて考える。 特に、①大学の危機管理、②研究機関としての役割、③地域貢献、社会貢献としての役割、④具体的に次の災害にどう備えるかなどを中心にシンポジウムを進める。	学校関係者、防災関係者、防災に興味のある方	95
平成25年度	FD講演会「教授法が大学を変える文系・理系の先進的なアクティブ・ラーニングの事例を学ぼう」	平成25年8月9日	学生の自主的・自律的な学修を促すアクティブ・ラーニングの事例紹介(文系・理系)と実施上の課題について講演およびパネル・ディスカッションを行う。	7	116
	BCP(事業継続計画)作成研修	平成25年9月11日	平成24年度、大学コンソーシアムやまぐちでは、「大災害時代における大学の果たす役割」をテーマにシンポジウムを開催した。シンポジウムでは、阪神・淡路大震災、東日本大震災を経験した講師から、BCP事業の趣旨・目的等を作成しておくことの重要性が指摘された。平成25年度は、既にBCPを作成した大学から講師を招聘し、大学におけるBCPの実際を学ぶとともに、山口県内各大学のある地域における地震環境について学ぶ。そして、それらをもとに、参加者は講師の指導を受けながら、所属大学のBCP案を作成する。	11	43
	山口大学・大学コンソーシアムやまぐちSDセミナー2013「大学職員としてのチャレンジ～大学職員として何をすべきか～」	平成25年12月6日	「Let's Challenge ～未来に向けて大学職員として何をすべきか～」というテーマでグループワークを行い、後半の全体発表では、本学や地域、国公立を問わない他大学の若手職員・幹部職員がプレゼンを行い、「行動力の大切さ」「目的意識を持つこと」「教職員の信頼関係の構築」「もの言える職員となること」など、前向きな意見が多数出された。	8	91
平成26年度	FD・SD講演会「障害者差別解消法施行に向け、大学としての対応を考える-合理的配慮とは何か、支援体制を再考する-」	平成26年8月6日	障害者差別解消法施行後の大学における障害学生支援の変化やその変化にどのように対応していかなければならないかについて、パネルディスカッションを通して明らかにする。	7	138
	山口大学・大学コンソーシアムやまぐちSDセミナー2014「大学職員の企画力が大学を変える」	平成26年12月19日	『大学のガバナンス改革の推進について(審議まとめ)』(平成26年2月12日 中央教育審議会大学分科会)に言及されているように、昨今の大学経営において、大学職員の企画力が大きく期待されている。本セミナーでは、「大学職員の企画力向上」をテーマに、基調講演を行うほか、参加者一同によるグループワークを通して、大学職員の企画力の大切さに新たな気づきを得ることを目的とする。	7	160

(出典：FD 報告書)

<障害者差別解消法施行に向け、大学としての対応を考える(FD 報告書抜粋)>

平成26年度 全学FD・SD講演会 実績報告書

「障害者差別解消法施行に向け、大学としての対応を考えるー合理的配慮とは何か、支援体制を再考するー」

○日時：平成26年8月6日（水）13:30～16:30

○会場：吉田地区：メディア棟情報メディア講義室、常盤地区：工学部 E31 教室、小串地区：医学部総合研究棟8階 多目的室

○参加者：参加総数 138名（昨年116名）（学生1名、教職員 137名）

（内訳）山口大学106名（吉田地区66名（昨年度52名）、小串地区33名（昨年度20名）、常盤地区7名（昨年度16名）、山口県立大学7名（昨年度4名）、徳山大学5名（昨年度13名）、山口学芸大学8名（昨年度8名）、東亜大学1名（昨年度3名）、下関市立大学4名、至誠館大学4名、水産大学3名；アンケート回収数99枚

○講師：文部科学省高等教育局 学生・留学生課 厚生係・就職指導係 庄司 祐介係長
広島大学大学院総合科学研究科・広島大学アクセシビリティセンター長 佐野(藤田) 眞理子教授

○内容

講演会は3部構成で行われた。第1部では文科省の庄司係長から参加者の共通理解を得るために、最近の障害者支援のために「障害者権利条約」や「障害者差別解消法」などの法整備の背景やその内容について説明していただいた。特に現在、内閣府が国としての支援方針やガイドラインを作成中であるため、文部科学省としてはその検討結果を受けて、各大学に通知し、各大学で大学が置かれた状況等勘案しながら対応指針を作成するという手順を明らかにされた。

第2部では、「障害者差別解消法」の中で障害者に対する差別的取扱いの禁止や合理的配慮の不提供の禁止が義務づけられているが、特に「合理的な配慮」とは具体的にどのようなことを行い、どのような点に留意して対応していかなければ

ならないのかについて事例を含めて広島大学アクセシビリティセンターの佐野センター長から説明していただいた。特に合理的な配慮に対する考え方に関しては、「障害学生のニーズの理解」と「大学教育・授業の特性」および「多様な選択肢の中から支援方法を選択」といった3つの内容を考慮しながら、合理的配慮の内容を障害学生本人と大学との協議に基づいて合意形成していくことが重要であるという指摘があった。また、合理的な配慮が確実に行われていくためには、全学的な支援システム、支援者育成のシステム、学内外の

設問1 研修会に参加した感想はいかがでしたか？

選択肢	人数	割合(%)
非常に良かった	21	21.2%
良かった	65	65.7%
どちらとも言えない	10	10.1%
あまり良くなかった	1	1.0%
良くなかった	1	1.0%
無回答	1	1.0%
合計	99	100.0%



佐野(藤田) 眞理子教授・広島大学アクセシビリティセンター長の講演

(出典：FD 報告書)

<大学職員の企画力が大学を変える(FD 報告書抜粋)>

山口大学・大学コンソーシアムやまぐち SD セミナー2014

『大学職員の企画力が大学を変える』開催報告

日 時：平成 26 年 12 月 19 日（金） 13:30～17:00

場 所：吉田キャンパス・大学会館 1 階大ホール及び大学会館 2 階会議室

参加者：第一部 164 名（うち学外 42 名）、第二部 81 名（うち学外 37 名）

主 催：山口大学

共 催：大学マネジメント研究会、大学コンソーシアムやまぐち

概 要：

13：30～13：40 開会の挨拶・趣旨説明 学長 岡 正朗

13：40～14：50 第一部《基調講演》

「今、期待される大学職員の企画力」

学校法人梅光学院理事長（大学マネジメント研究会会長、元京都大学理事・副学長） 本間 政雄

「若手職員から育む企画力」

佐賀大学総務部企画評価課係長（IR 主担当） 末次 剛健志

15：00～16：50 第二部《グループワークセッション》

「Let's Challenge - 大学職員の企画力が大学を変える -」

ファシリテーター

大学教育機構 大学教育センター准教授 林 透

大学教育機構 大学教育センター助教（特命） 河島 広幸

16：50～17：00 クロージング・閉会の挨拶 理事・副学長 田中 和広

[総合司会：大学教育機構 大学教育センター准教授 林 透]

内 容：

12 月 19 日（金）に、山口大学・大学コンソーシアムやまぐち SD セミナー2014『大学職員の企画力が大学を変える』を、県内の公私立大学はもとより遠くは埼玉大学や大学評価・学位授与機構からの参加があり 160 名以上を集め、本学吉田キャンパスにおいて開催した。本セミナーは、山口大学・大学コンソーシアムやまぐちの共同主催、大学マネジメント研究会の共催で、山口大学が採択された文部科学省・大学教育再生加速プログラム（AP）における教学マネジメント強化のための研修の一環として実施された。

冒頭、岡 正朗 山口大学長より開会挨拶及び趣旨説明があり、今回の SD セミナーに大勢の参加者があったことは、本学において、地域において、大学職員の企画力の重要性の認識の表れであるとの説明があった。

山口大学・大学コンソーシアムやまぐち SD セミナー2014
『大学職員の企画力が大学を変える』

平成26年12月19日（金）
13：30～17：00
山口大学 大学会館1階大ホール・2階2階会議室
山口大学吉田キャンパス

【参加費】 無料
【主 催】 国立大学法人山口大学、大学コンソーシアムやまぐち
【共 催】 大学マネジメント研究会
【趣 旨】 『大学のガバナンス改革の推進について（第2版）』(平成26年2月12日 中央教育審議会大学分科会)に言及されているように、今後の大学経営において、大学職員の企画力が大きく期待されています。本セミナーでは、「大学職員の企画力向上をテーマに、基調講演を行うほか、参加者一同によるグループワークを通して、大学職員の企画力の向上に新たな気づきを得ることを目的とします。
なお、本セミナーは、山口大学が採択された文部科学省「大学教育再生加速プログラム」における大学教育・学習・学位の強化の一環として開催いたします。

時間	内容	司 会
13:30-13:40	開会の挨拶・趣旨説明	岡 正朗
13:40-14:50	第一部《基調講演》 「今、期待される大学職員の企画力」 学校法人梅光学院理事長 （大学マネジメント研究会会長、元京都大学理事・副学長） 本間 政雄 「若手職員から育む企画力」 佐賀大学総務部企画評価課係長（IR主担当） 末次 剛健志	本間 政雄 末次 剛健志
14:50-16:50	第二部《グループワークセッション》 「Let's Challenge - 大学職員の企画力が大学を変える -」 ファシリテーター 大学教育機構 大学教育センター准教授 林 透 大学教育機構 大学教育センター助教（特命） 河島 広幸	林 透 河島 広幸
16:50-17:00	クロージング・閉会の挨拶	田中 和広

（11:30～12:30 特別公開講座（聴講）第二学舎「あきら」・収容数 2,800 円・ホールA～F）

【参加申し込み問い合わせ先】
参加ご希望の方は、12月19日（金）正午、最新『山口大学・大学コンソーシアムやまぐち SD セミナー2014』に必要事項を記入しお申し込みください。お申し込みは、本学を由り山口大学・大学コンソーシアムやまぐち SD セミナー2014事務局にて、12月19日（金）正午まで、直接またはメールでお申し込みください。お申し込みは、本学を由り山口大学・大学コンソーシアムやまぐち SD セミナー2014事務局にて、12月19日（金）正午まで、直接またはメールでお申し込みください。

〒753-8581 山口県山口市127-1
山口大学総務部人事課企画評価課 (共催・協賛)
E-mail: sds@yamaguchi-u.ac.jp TEL: 083-933-9328 FAX: 083-933-9329

(出典：FD 報告書)

I-4 学術資産や情報通信技術を活用した情報発信

図書館は、入館・貸出及び Web 蔵書目録検索等の一般市民向けサービス提供とともに、学術機関リポジトリ「YUNOKA」により本学学術成果論文等約 2.3 万件を公開している。埋蔵文化財資料館は、学内発掘調査及び考古資料を活用した企画展を開催している。また、県内大学・短大・高専等の学術成果論文等を保存・公開する大学共同リポジトリ「維新」(約 3 万件収録)及び県内各自治体等の埋蔵文化財発掘調査報告書を蓄積発信する「山口県遺跡資料リポジトリ」の管理運用支援等、地域への、また、地域からの知的情報発信に積極的に参画している。

「学術資産継承事業」の成果展の開催や貴重資料の Web 上での公開等、文化普及活動も推進している。さらに、県内大学博物館・図書館の学術資産・成果を活用した連携テーマ展「山口県大学 ML 連携特別展」を開催しており、26 年度は「発見」をテーマに 11 大学 15 館が参加した。27 年度に創基 200 周年を迎えるにあたり、市民も参加して、ノーベル賞受賞者を招いた学術講演会、ホームカミングデー、フォトコンテストを開催し、地域住民とともに、200 周年を祝った(資料 B-1-②-4)。

資料 B-1-②-4：学術資産や情報通信技術を活用した情報発信

<図書館の利用状況>

開館状況

館名	開館日数(日)				年間入館者数(人)							
	平日		土曜・日曜・祝日	計	身分別			開館時間帯別			合計	
	時間内	時間外			教職員	学生	学外者	平日		土曜・日曜・祝日		無人開館
			時間内	時間外								
総合図書館	239	160	95	334	17,359	313,354	7,841	269,232	32,019	37,303	0	338,554
医学部図書館	237	194	95	332	8,489	107,053	2,630	63,659	4,613	7,102	42,798	118,172
工学部図書館	237	160	73	310	3,086	77,284	3,464	68,802	7,541	7,491	0	83,834
合計	-	-	-	-	28,934	497,691	13,935	401,693	44,173	51,896	42,798	540,560

貸出状況

館名	身分別								開館時間帯別(冊)				
	教職員		学生		学外者		計		平日		土曜・日曜・祝日	無人開館	計
	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数	時間内	時間外			
総合図書館	1,041	3,784	12,895	47,219	551	1,917	14,487	52,920	37,060	9,042	6,818	0	52,920
医学部図書館	459	1,551	3,029	10,855	157	474	3,645	12,880	6,989	1,782	745	3,364	12,880
工学部図書館	425	1,653	3,899	12,660	242	681	4,566	14,994	11,481	2,194	1,319	0	14,994
合計	1,925	6,988	19,823	70,734	950	3,072	22,698	80,794	55,530	13,018	8,882	3,364	80,794

(出典：大学情報機構作成)

<学術機関リポジトリ事業の目的・概要>

山口大学学術機関リポジトリ(YUNOKA)	http://petit.lib.yamaguchi-u.ac.jp/CrossSearch/
山口県大学共同リポジトリ(維新)	http://ypir.lib.yamaguchi-u.ac.jp/CrossSearch/
埋蔵文化財資料館企画展	http://yuam.oai.yamaguchi-u.ac.jp/Shiryokan/home/newskako.html
山口県遺跡資料リポジトリ	http://rar.lib.yamaguchi-u.ac.jp/Repository/list/a
山口大学学術資産継承事業成果展	http://yuam.oai.yamaguchi-u.ac.jp/Shiryokan/home/what%27snew.html
山口大学貴重資料・特殊文庫	http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/kityousho/riyou.html

(出典：本学 Web ページ)

＜山口県大学 ML 平成 26 年度連携特別展の概要＞

機関	テーマ	概要	期間
下関市立大学 附属図書館	『鯨産業の歴史発見』	江戸時代の捕鯨の様子を描いたパネルを展示します。 また、イワシクジラの頭部骨格標本および捕鯨母船「第二図南丸」の模型の展示を行います。 閲覧をご希望の方には、本学内に常設されているくじら資料室をご紹介します。 展示開催期間中に、鯨資料室シンポジウムを開催予定です。	10月1日(水) ～11月30日 (日)
下関短期大学 図書館	『発見！『けんちょう』の魅力～郷土料理の謎をひもとく～』	「崩した豆腐と人参や大根などの野菜の妙め煮」を山口県では、「けんちょう」「けんちょう汁」等と呼んでいます。昨年度、栄養健康学科ゼミナール活動にて料理のルーツを探り、伝承の魅力を発見する研究を行いました。更に、新たな魅力を付加した「けんちょう丼」(国立循環器病研究センター主催「ご当地かるしおレシビプロジェクト2013S-1g大会」優秀賞受賞、写真参照)を作成しました!本展示では「けんちょう」の由来と、研究で発見した魅力をご紹介します。	10月1日(水) ～1月30日 (金)
東亜大学 附属図書館	『版画の世界～自己の表現力の発見・再発見』	図書館を、本学芸術学部の在学生たちの授業作品、わけても版画作品の発表・紹介の場とし、版画の世界やその多彩な技術を紹介するパネル・コーナーとあわせてユニークな展示空間を構想します。折しも近隣の山口県立美術館にて「大浮世絵展」があったばかりです。そのことによって、読書空間と視覚空間、それに学外の社会空間が相互に共鳴しあうハイブリッドな「公共空間」としての図書館のあり方について、一般の人々に新たな感受性でもって親しんでいただければと思う次第です。	11月4日(火) ～12月19日 (金)
水産大学校 図書館	『水産都市「下関」の再興に向けた「発見』』	かつては捕鯨業や遠洋トロール漁業の基地として栄えた下関ですが、厳しい国際環境の中で、商業捕鯨や外国200海里水域内からの撤退を余儀なくされ、今日に至っています。しかし、下関は、瀬戸内海と日本海に面し、多様な海洋環境と水産資源に恵まれています。温暖化をはじめとする海洋環境の変化による影響も少なくはありませんが、水産都市「下関」の再興に向け、本校で取り組んでいる調査・研究の一端を紹介します。	10月1日(水) ～11月28日 (金)
梅光学院大学 図書館	『発見！～100年前の文芸雑誌から～』	本学は今年、下関開学100年を迎えました。今からおよそ100年前に出版された、大正時代の文芸雑誌の複製版を展示します。当時の文芸雑誌の装丁や、掲載された詩歌や文学から、開学当時の時代背景や世相、時代の空気を「発見」していただければ幸いです。	12月2日(火) ～1月31日 (土)
梅光学院大学 博物館	『銀幕の魅力発見！～戦前劇場プログラムの世界～』	戦前、映画は娯楽の華で、大都市では映画館の集まるエリアが形成され、大勢の観客でにぎわいました。そのころ、映画館は上映作品を紹介するプログラムを独自に発行しています。特に東京の一流劇場のプログラムは、デザインに工夫あつて楽しめます。本展では戦前東京の劇場プログラムと戦後40年代の映画プログラムの数々を紹介し、あらためて、その魅力を発見していただきます。	12月2日(火) ～1月31日 (金)
宇部フロンティア大学 短期大学部 図書館	『「うま味(umami)」の発見「絵本」の発見』	「うま味」現在までに、色々な栄養素などが発見されてきました。今回は、ユネスコ無形文化遺産に登録された和食において重要かつ日本人が発見した「うま味」について展示を行います。「絵本」絵本は、言語の発達、想像力を養い、親子のコミュニケーション、親を促すなど、子どもの発達に大変効果があります。絵本860冊の寄贈を含む本展文庫を中心に、大人も子どもも楽しめる絵本の魅力を紹介致します。	10月1日(金) ～12月25日 (木)
宇部フロンティア大学 附属図書館	『「学生力発見！！』』	本学図書館では学生が自分の中の好奇心や創造力の発見を目的として学生協働を行っており、ML展も彼らが主体です。そんな学生力を教職員が発見するきっかけとなったのが、学生が一人て本への思いを込めて作る「一人展示」でした。本展ではその記録展示に加えて、本学の他の学生や教職員の本への思いを集めて展示する「本の思い出発見プロジェクト」、新聞を再編集する「新聞・再構築ワークショップ」を実施します。	10月1日(水) ～12月25日 (木)
山口東京理科大学 図書館	『科学の楽しさを知り、学が喜びを発見しよう』	「理学の普及」を目標とする東京理科大学の一員である山口東京理科大学では、地方の理系単科大学として地域に密着した教育、研究を進展させています。活動の例として小中学生に対する科学教室、高大連携活動、入学した学生に対する社会人基礎力育成等があげられます。資源のない我が国において、若者に科学の楽しさを知ってもらい、若者が学が楽しさを発見することは重要なことだと考えています。これらの活動状況をご紹介します。	10月1日(水) ～11月29日 (土)
山口大学 医学部図書館	『新発見資料から歴史を知る～山口の医学の原点を探る～』	当館では、山口県の旧家、四熊家・浅山家から山口県立医科大学(現山口大学医学部)へ寄贈された古医書を所蔵しており、昨年、整理が終わりました。江戸時代の医学書を始め、漢方医学の古典、西洋医学・物理学の翻訳書などがあり、幕末から明治初期にかけての医学及び医学教育の記録として貴重なものです。今回は、江戸時代の山口で行われていた医学教育に関連資料とともに紹介します。	11月3日(月) ～1月30日 (金)
山口大学 総合図書館	『新発見資料から歴史を知る～木戸孝允が憂えた日本の行く末～』	山口大学総合図書館に所蔵する『松菊公書翰』の中から、新たに確認された『明治六年以後の政治に関する木戸孝允覚書』を中心に、当時の状況や歴史的な背景を探ります。この展示により、資料が語る歴史の空気を感取っていただければ幸いです。	11月3日(月) ～1月30日 (金)
山口大学 埋蔵文化財資料館	『新発見資料から歴史を知る～山口大学発掘調査速報展2012-2013～』	県内に所在する山口大学の5キャンパス(吉田・小串・常盤・白石・光)は、いずれも遺跡の上に立地しています。当館は、設立以降継続して本学の開発工事等に対する埋蔵文化財の保護業務を行っています。今回の展示では、平成24年度から25年度にかけて実施した発掘調査により、新たに発見された遺跡情報を公開します。ほぼ全ての資料が初公開となります。ぜひ一度足を運び下さい。	11月3日(月) ～1月30日 (金)
山口県立大学 附属図書館	『桜園寺内文庫～収蔵資料再発見』	桜園寺内文庫収蔵の古典籍類は、日本および朝鮮・中国のものを含めて約1,500部、12,000冊あります。日本の古典、特に文学書に関しては刊本がほとんどですが、ジャンルは多岐にわたっています。今回の展示では、古典籍を含めた収蔵資料の中から、主に日本の文学書を紹介します。	11月4日(火) ～1月29日 (木)
至誠館大学 附属図書館	『発見～メロディーの向こうに見えるもの：童謡・唱歌～』	日本には子どもの歌が沢山あります。私達は、子どもの頃から沢山の歌を歌ってきましたが、その歌に込められた意味はあまり知られていません。本学では、童謡・唱歌を中心に、歌に込められた作者の心、背景、メッセージを展示紹介します。作品の背景を知ることにより歌への寄り添い方が変わって頂ければ幸いです。また11月2日(日)の大学祭では童謡・唱歌の歌唱解説を行います。ぜひご参加ください。	10月20日(月) ～12月24日 (水)
岩国短期大学 附属図書館	『発見、絵本！～子どもの心を育むもの』	岩国短期大学は平成25年度から幼児教育科の単科短大として出発しています。図書館蔵書の中でも、保育に深くかかわる絵本について、本学所蔵の絵本をジャンル別に分類し、そのうちの代表的なものを展示します。また、絵本を題材にした授業の紹介やそれら授業の学習成果を展示します(展示例:「基礎ゼミナール」の「絵本100冊読み」の実践紹介、「児童文化」の「私の心の一冊表紙づくり」の実践紹介など)。	10月20日(月) ～12月19日 (金)

(出典：大学評価室作成)

＜山口県大学 ML(ミュージアム・ライブラリー)の事業概要＞



山口県大学 ML (Museum・Library) 連携事業報告

平成 26 年度 展示テーマ 『発見』

事業の経緯

参加館が共通テーマに沿って各大学や館の特性を生かした学術資料または研究成果の展示を開催するという現行体制での 2 年目となった平成 26 年度は、新たに 2 大学 3 館 (岩国短期大学附属図書館、東亜大学附属図書館、山口大学医学部図書館) が参加することとなり、11 大学 15 館 (下記「事業の実施体制」参照) での事業開催となった。

平成 26 年 6 月 17 日に山口大学にて山口・萩以東地区の、翌 18 日には梅光学院大学にて下関地区の、同日宇部フロンティア大学にて宇部地区の事業説明会を開催し、

- ◎展示の共通テーマを『発見』とする
- ◎事業期間は 10 月から翌年 1 月までとし、各館 2 ヶ月以上は展示開催する
- ◎事務局体制として、下関地区と宇部地区に地区連絡等担当館を置く
- ◎見学者が効率よく各館を回れるよう、各地区で開催期間を調整する
- ◎今年度もスタンプラリーを実施し、4 館見学でコットンバッグ、8 館見学で手ぬぐいをプレゼントする

などが決定された。

以降、各館の展示準備とともにポスター、スタンプラリーカード (チラシ) の作成などが進められ、広報物納品後は事務局とともに各館による広報活動が繰り上げられた。

この間、平成 26 年 6 月 19 日～ 20 日に開催された第 17 回大学博物館等協議会・第 9 回博物科学会にて当事業に関する研究発表 (山口大学：横山・吉光) が、平成 26 年 7 月 12 日には西日本図書館学会山口支部研究会にて事例報告 (至誠館大学：藤本) が行われ、博物館・図書館両業界へ当事業の独自性が強くアピールされたことも成果の一つに数えられる。

平成 26 年 10 月、予定通り「山口県大学 ML 連携特別展」は開幕し、期間中計測されただけ (図書館での開催は見学者を正確にカウントすることが困難) でもおよそ 1,500 名の方々に見学いただいた。スタンプラリーも最終的に 4 館達成者が 39 名、8 館達成者が 20 名と、昨年度を大きく上回った。

次頁より参加各館の展示内容の紹介と実施成果を報告するが、事業終了後の平成 27 年 2 月 24 日に山口大学において事業報告会が開催され、次年度の事業の継続とともに以下のことが決定された。

- ◎展示の共通テーマを『つなぐ』とする
- ◎事業期間は 10 月から翌年 1 月までとし、各館 2 ヶ月以上は展示開催する
- ◎また、参加館からは
- ◎パンフレットに掲載できない情報も多く、またパンフレット作成の時期には各館の企画も確定していないので、余力があればパンフレットとは別途、各館独自の展示内容ポスターを作成してはどうか。
- ◎各館独自のチラシを作成するために、共通で使用できる片面の広報用デザインを用意してはどうか。裏面に各館で作成した独自チラシ等を印刷して活用したい。

などの提案があった。当事業は未だ発展途上にあるため、今後も様々な模索が繰り返されるであろうが、山口県の大学力の向上のためにも事業を継続していく所存である。

事業の実施体制

・主催

山口県大学 ML 連携事業事務局 (山口大学情報環境部学術情報基盤整備室内)
 代表 吉光紀行 (山口大学情報環境部学術情報基盤整備室 室長)
 企画担当 横山成己 (山口大学埋蔵文化財資料館 助教)
 事務担当 川上 誠 (山口大学情報環境部資料契約係 図書系職員)
 岡崎聡志 (山口大学情報環境部情報サービス係 図書系職員)
 下関地区担当 下関短期大学図書館
 宇部地区担当 宇部フロンティア大学附属図書館

・参加館

岩国短期大学図書館 宇部フロンティア大学短期大学部図書館
 宇部フロンティア大学附属図書館 至誠館大学附属図書館
 下関市立大学附属図書館 下関短期大学図書館 水産大学校図書館
 東亜大学附属図書館 梅光学院大学図書館 梅光学院大学博物館
 山口県立大学附属図書館 山口大学医学部図書館 山口大学総合図書館
 山口大学埋蔵文化財資料館 山口東京理科大学図書館 (50 音順)

・共催

大学コンソーシアムやまぐち 山口県大学図書館協議会

・後援

山口県図書館協会 山口県博物館協会 大学博物館等協議会



展示広報用ポスター



4 館達成でコットンバッグ
8 館達成でオリジナル手ぬぐいをプレゼント



山口県大学 ML 連携事業 web

(出典：山口県大学 ML 連携事業報告 (平成 26 年度))

<創基200周年記念の行事開催状況>

<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/200th/event.html>

(出典：本学 Web ページ)

<山口大学創基200周年記念学術講演会>

日時	概要
<p>【日時】平成24年5月20日(日) 10時30分～12時00分 【場所】山口大学常盤キャンパス(宇部市)工学部 D11講義室を主会場に遠隔配信 【対象者】高校生(工学部メイン会場) 中学生以上および一般(定員を超えた場合、別会場への中継もあります)</p>	<p>5月20日(日)、平成12年(2000年)ノーベル化学賞受賞者の「白川英樹」先生(筑波大学名誉教授)をお招きして、本学創基200周年記念『第3回「知の広場」学術講演会』を開催しました。高校生および中学生を対象とした講演会でしたが、一般の方々も含め約300人が参加され、メイン会場である工学部のほか吉田地区に遠隔配信されました。</p> <p>講演会では「私の歩んだ道 ～導電性高分子発見の偶然と必然～」と題し、「子どもの頃はどのようなことが好きでどのようなことを考えていたか」、「自然は 未知にあふれた宝の山である」といったことなど、白川先生が歩んでこられた道を中学生や高校生にも分かりやすく説明をされました。また、白川先生が中学卒業時の文集で書いた内容が紹介されるなど、科学に興味を持つ学生にとって、大変貴重な経験となりました。</p> <p>講演会終了後、質疑応答では、小さなお子さまからの素朴な質問が出るなど、ほのぼのとした一幕もありました。</p>
<p>【日時】平成27年1月28日(水) 14時45分～16時30分 【場所】山口大学常盤キャンパス(宇部市)工学部 D11講義室を主会場に遠隔配信 【対象】一般、本学学生および教職員</p>	<p>1月28日(水)、2014年ノーベル物理学賞を受賞した名古屋大学教授 天野浩先生をお招きして、本学創基200周年記念学術講演会を、工学部D棟11講義室をメイン会場として開催しました。このたびの講演会は、学生らの知的探究心を育むことを狙いとしており、研究活動などを通じて工学部の教員と交流のある天野教授にご講演いただくこととなりました。本学では、天野先生をプロジェクトリーダーとして平成25年にスタートした「研究成果発展事業スーパークラスタープログラム」の一翼を担う立場での連携により研究を推進しているところです。</p> <p>講演会では「青色LED誕生までの道のり ～若者へのメッセージ～」と題し、本学の学生に「若い皆さんが将来ノーベル賞を受賞した際の参考のために」との前書きで、ノーベル物理学賞の受賞式や受賞の際のエピソードなどをユーモアを交えて披露、その後、青色LED誕生まで粘り強く研究を続けた苦労話、LEDの省エネへの貢献、医用分野への応用の可能性などについて分かりやすく講演されました。</p> <p>また、講演会は遠隔講義システムを利用し、中継会場として工学部D21講義室、D31講義室および吉田キャンパスの学生会館へも同時配信され、全会場で一般市民を含む約800名の参加があり、多くの報道機関も取材に訪れるなど、ノーベル物理学賞受賞者の貴重な講演ということで関心の高さが伺えました。</p> <p>講演終了後に、参加者から質問を受けて、「今の学生には、もっと野心を持って研究を行ってほしい」とこれからの未来を担う学生たちに熱いメッセージを送りました。</p> <p>最後に岡学長から天野先生に感謝状と記念品が授与され、講演会は大盛況のうちに終了しました。</p>

(出典：本学 Web ページ)

I-5 学生等による地域貢献活動

全学的な学生による地域貢献活動として、学生の自主的・創造的企画を大学が支援する「おもしろプロジェクト」では、「Code Orange」による市民への心肺蘇生法普及活動をはじめ、地域の環境美化のプロジェクト等が行われている。また、学生の自主活動の支援を行う「学生自主活動ルーム」を通じて、学生は、「日本ジャンボリー」や「下関海響マラソン」等のボランティア活動等に参加している。

各部署における取組として、教育学部では、教職志望学生による「学力向上等支援員派遣」及び「特別支援教育ボランティア」等による地域協働体験事業、経済学部のゼミ活動を通じた地域課題解決への貢献を行っている。また、多様な講演会、大規模災害への防災教育、特定秘密保護法の理解、東アジアの格差問題への警鐘及び時間学の紹介等のシンポジウムを開催し、市民に提供している(資料B-1-②-5, 別添資料B-1-②-ア)。

資料B-1-②-5：学生等による地域貢献活動

<おもしろプロジェクト及び学生自主活動ルームを通じたボランティア活動の状況>

<http://www.ext.yamaguchi-u.ac.jp/chiiki/chiikirenkei/gakusei.html>

(出典：本学 Web ページ)

＜平成25年度おもしろプロジェクトにおける地域貢献活動の概要＞

プロジェクト名称	プロジェクトの取組の概要等
Code Orange	<p>平成25年度の活動内容 1)組織改編、2)新規構成員勧誘、3)医学部学生対象講習会、4)学七タ祭展示&講習会、5)工学部オープンキャンパスにおいて活動紹介、6)BLS & First-aid WS、7)医学部医学祭一般市民向け心肺蘇生法講座、8)山口市防災実働訓練参加&講習会、9)小野田工業高校保健指導、10)宇部駅徒徒競走大会自転車救急隊&救護所、11)山口大学医学部付属病院院内コメディカル対象講習会、12)他大学でのWS参加、13)定例会、14)顕徳碑掃除</p> <p>プロジェクトの取組の概要等 ＜例示＞ 7)医学祭一般市民向け心肺蘇生法講座 毎年恒例である医学祭での一般市民向け心肺蘇生法講座を、11月8～11日に小串キャンパスで実施した。実施内容は、①BLS講習、②ALS(2次救命処置)の実演である。今年は、医学祭実行委員長よりの依頼で、地域医療推進学講座の中村浩先生の監督のもと、ACLS(2次救命処置)の実演も実施した。ACLSの実演は、路上で心肺停止に陥り病院に搬送された後、どのような蘇生処置が病院内で実施されているかを実演する事により、来場者の方に病院に搬送される前の人間によるBLSがいかに重要かを理解して頂くために実施した。また、BLS講習については、例年と同じく、2人1組でインストラクターとなり、来場して頂いた方に30分を基本にレクチャーを行った。当日は190名近い方に会場頂いた。</p>
震災から何を想うか	<p>3. スタディーツアー参加者の感想 東北へ行きたい、ボランティアがしたい、という単純な理由で東北スタディーツアーへの申し込みを決めました。ツアー内容はともあれ、価値のある経験ができたと思います。 初日に宮城の南三陸、松島、仙台、2日目に福島の高相馬、福島市内を回り、被災地の見学をしましたが、地域により被災の度合いが大きく異なることに驚きました。津波が到達した海側の街は、津波ですべて流されて、震災から2年以上も経つ現在もまだ復旧作業中であるのに対し、内陸の仙台、福島は街全体として目立った損傷は見られず、ほぼ元通りになっていました。この差を目の当たりにして、改めて津波の恐ろしさを痛感しました。 福島大学の学生さんを迎えて行ったワークショップでは、大学、学部、学年を超えた意見交流を通して、震災やボランティアについての考えを深めることができました。私は今まで、ボランティアは、他人のためでなく自分のためにするものだと思っていましたが、それだけではただの自己満足で終わってしまうことに気づかされました。ボランティアは、「やってあげる」や「やらなければならない」という意識でなく、「やるのが当たり前」くらいの気持ちでできたら一番いいのかな、と思いました。 最終日のボランティア活動の内容は、原発20km圏内の震災住宅の家具撤去という、自分の想像とは全く違うものでした。震災で自宅を手放さざるを得なくなった家主の方のことを思うと、複雑な気持ちになりましたが、前日のワークショップで考えたことを思い返しながら、一生懸命作業に取り組みました。今回は1件のボランティア活動にしか携われませんが、復興の一部に直接関わることができてよかったです。</p>
カンボジアの子どもたちに学校体育の素晴らしさを届けるプロジェクト	<p>1. プロジェクトの目的 本プロジェクトは、カンボジア・チョンカル群に於いて日本式の運動会を開催することでカンボジアの体育教育における体育授業の普及の先駆けになることを目的としています。また、日本の運動会のように保護者、地域の人々が観に来たり、出店が出たりといったような「学校」というものが地域から疎外されているカンボジアの現状から「地域と学校のリンク」を狙った運動会の開催も一つの目標である。また前年度の1月に第1期運動会を同群で開催している。そこで本プロジェクト「第3期運動会」を学生自らによって立ち上げボランティア活動として活動を開始した。</p>
地域に物知り博士を増やそう！一めだかの学校一	<p>2. まとめ 今回はめだかの学校を、おもしろプロジェクトに採択していただきありがとうございました。 今までにない活動を行うことができ、多くの学びを得ることができました。子どもたちが何に興味を持っているのか、地域の行事はどのようになっているのか、地域に大学生が入るといったことはどんな効果を生み出すのかなど、平川地域の会議に出ながら、地域との連携はとて素晴らしいものであると実感しました。平川地域の方から、めだかの学校を応援すると言われたときは本当に嬉しかったです。 平成26年度も、新たな活動を企画しています。これからも、地域・小学校・大学を結びつける架け橋になれるといいなと思います。</p>
ほーたる こーい！	<p>1. プロジェクトの目的 常盤公園にホテルが多く飛び交うような環境をめざし、ビोटープをつくるための活動を行う。 2. プロジェクトの内容 公益財団法人宇部市常盤動物園協会やボランティアの方々を中心に、宇部市の協力も得て、宇部市の常盤公園敷地北端の荒れ地にビोटープを造成する計画がある。これらのグループと協力して、荒れ地内の水路にホテルをはじめとするたくさんの生き物が棲む環境を作ることをめざし、水路周辺の環境整備を行ってきた。またビोटープ予定地に生息する生物の把握をするためホテルの飛翔調査やビोटープ予定地周辺の生物調査も行っている。この結果から生き物がより棲みよい環境になるようなビोटープの計画を立てる。 また、ビोटープや環境に関する知識を深める活動を学外で行っている。</p>

(出典：おもしろプロジェクト最終報告書(抜粋))

＜平成25年度学生自主活動ルームにおける学生ボランティアの活動状況＞

月	タイトル	概要
4月	自然観察公園でヨシ焼きのボランティアをしました	山口市阿知須にある山口県立きらら浜自然観察公園は、園内のヨシ原の環境維持のため毎年ヨシ焼きを行っています。平成26年は3月8日(土)に行われ、4名の学生ボランティアが参加し、延焼防止や飛び火の発見に協力しました。火を入ると勢いよく炎が広がったため、一般の方が安全に見学できるように声かけをしました。作業をすずめると、一時間ちよつとでヨシ原は灰になりました。これから焼け跡は湿地になり、鳥などの生き物が活動を始めます。
5月	被災地でのボランティア活動について	もうすぐゴールデンウィークですね。お休みを利用して、被災地の復旧支援のボランティア活動をしたいと計画している方は、事前に自主活動ルームに相談・活動届の提出が必要になります。被災地のボランティア活動は自己責任での活動が前提になっています。1人で現地に行くのではなく、ボランティア団体に所属するなど、しっかりとした安全確保をおこなってください。ボランティア活動を行う時には、大学での手続きを行い、細心の注意を払って活動に参加してください。
6月	「日韓海峽海岸漂着ごみ一斉清掃」に参加しました	山口県は日韓8県市道による共同交流事業として、毎年、海岸の漂着ごみの一斉清掃を行っています。5月12日(日)に長門市【油谷大浦海岸】で開催された『日韓海峽海岸漂着ごみ一斉清掃』では、留学生を含む35名の学生が参加しました。海岸にはペットボトルや缶だけではなく、海外からの漂着物や冷蔵庫といった大型のものまであり、地元の方や他の参加者と一緒で炎天下のなか清掃活動を行いました。
7月	特命ボランティア講習会	6月17日(月)、県内で行われる市民マラソン大会の医務室ボランティアに参加するための講習会が行われました。医学部の中村先生から、呼吸補助法の説明を受けた学生は、専用機器を使って一生懸命勉強していました。
8月	自主活動ルームで国際交流をしました ～山口大学日本語・日本文化サマープログラム～	7月11日・12日の2日間、日本語・日本文化サマープログラムの『教室外活動』が自主活動ルームでありました。海外の学生と山口大学生が日本語や英語を交えながら、雑物をしたり折り紙を折ったりといったことを体験しました。1時間という短い時間でしたが、作業をしながらお互いの国や文化について紹介したり質問したりしました。
9月	【番外編】常盤キャンパスでおもしろプロジェクト紹介！	常盤キャンパス(工学部)のオープンキャンパスは8月4日(日)にありました。おもしろプロジェクトを紹介するブースでは、常盤キャンパスで活動している「ほーたるこーい！」と、小串キャンパスで活動している「Code Orange」の2団体が手伝いにきてくれました。ポスターで説明したり、体験コーナーを使ったりしてそれぞれの活動を紹介していました。
10月	第16回日本ジャンボリーの地域交流プログラムに参加してきました！	小学～中学生のジャンボリー参加者と体験活動をしました。海外からも参加者がおり、交流のサポートをしました。ボランティアが終わって～経済学部1年R1～ボランティアを通じていろんな経験ができたのでよかったです。海外からの参加した子どもたちにたいして、もう少し自分の英語力があればと思いました。
11月	平成25年7月、豪雨災害を受けた山口市阿東にある嘉年小学校(児童数7名)は、校舎に床下浸水し、グラウンドには土砂がはいりこみました。	おもしろプロジェクト「カンボジアの子どもたちに学校体育の素晴らしさを届けるプロジェクト」のメンバーでもある教育学部の学生9人がボランティアに参加しました。午前中は児童の「ふれあいファーム体験活動」のサポートで、菊作り、りんご作りのお手伝いに行きました。昼休みは、全員でサッカーをしました。思い切り体を動かすことができるよう心をこめて、真砂土をまいてならず作業を行いました。
12月	下関海響マラソンで特命医療ボランティアとして活動しました(11月3日)	低体温症で体調不良になったランナーの発見、処置を行い、現場での活躍が評価されました。特命ボランティア特別講習会を行います！ ◆心肺蘇生法とAEDの使用方法(小児編) ◆アナフィラキシーショックに対するエピペンの使用方法医学部中村先生に実技指導をいただきます。

(出典：学生自主活動ルーム通信(抜粋))

<各部署の地域貢献活動の取組>

教育学部地域協働体験事業	http://nagomi.e-chab.edu.yamaguchi-u.ac.jp:8080/chabudai/projects
山口大学研究推進体公開シンポジウム (大規模災害への防災教育)	http://www.yamaguchi-u.ac.jp/event-cal.html?blockId=357160&calendarMode=article
経済学研究科公開シンポジウム (特定秘密保護法の理解 他)	http://www.yamaguchi-u.ac.jp/event-cal.html?blockId=353058&calendarMode=article
東アジア国際学術フォーラム (東アジアにおける格差問題への警鐘 他)	http://www.eas.yamaguchi-u.ac.jp/event/10forum/10forum.htm
時間学セミナー・シンポジウム (時間学の紹介)	http://www.rits.yamaguchi-u.ac.jp/?cat=4
防災・日本再生シンポジウム (大規模災害への防災教育)	http://www.yamaguchi-u.ac.jp/weeklynews/2011/1880.html

(出典：本学Web ページ)

II 地域行政及び産業への貢献

II-1 地方自治体等との包括連携協定

法人化後、キャンパスのある宇部市及び山口市をはじめ、美祢市、周防大島町等の地方自治体のほか、各種公共団体や企業等と包括連携協定を結び、26年度には、学長が県知事をはじめ、13市6町の全ての首長との懇談を行った。協定を結んだ市町の審議会へは、本学から多くの委員を派遣し、教育、研究、医療・福祉、文化、経済、防災・安全、地域振興等の幅広い分野で連携・協力している。

特に、県とは、連携推進協議会(14年4月設置)を設置し、27年2月に地方創生に関する包括連携協定を締結した。山口市とは、26年度から人事交流を開始し、山口市から本学へ地域連携コーディネーターを迎え、本学から山口市地域振興部に職員を派遣し、また、新たに連絡協議会を設置して、連携体制を強化している(資料B-1-②-6、別添資料B-1-②-ア、別添資料B-1-②-イ)。

資料B-1-②-6：地方自治体との包括連携協定

<包括連携協定の締結状況>

【公共団体等】	締結年月日
宇部市	平成16年12月21日
山口市	平成17年 9月28日
国土交通省中国地方整備局	平成18年 3月15日
美祢市	平成26年 3月 5日
周防大島町	平成27年 1月21日
山口県	平成27年 2月27日
【学校等】	締結年月日
宇部工業高等専門学校	平成17年 3月 1日
放送大学	平成22年11月15日
東亜大学・東亜看護学院	平成24年12月21日
山口学芸大学・山口芸術短期大学	平成25年 9月18日
【法人等】	締結年月日
(公財)横浜企業経営支援財団	平成20年10月15日
(独)国際協力機構	平成22年 6月 1日
(地独)山口県産業技術センター	平成23年 5月31日
【企業等】	締結年月日
宇部興産(株)	平成16年 4月 1日
(株)トクヤマ徳山製造所	平成16年10月26日
(株)山口銀行	平成16年11月10日
三菱化学(株)・MOT総合研究所	平成26年 7月14日
(株)山口銀行・MOT総合研究所	平成27年 1月16日

(出典：地域未来創生センター作成)

<山口県と山口大学との地方創生に係る包括連携協定の締結の状況>

<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/weeklynews/2014/4129.html>

(出典：本学Web ページ)

<山口大学と山口県との連携・協力体制>

国立大学法人山口大学と山口県との連携推進協議会要項

(趣旨)

第1条 この要項は、国立大学法人山口大学(以下「山口大学」という。)と山口県との関係を総合的に調整し、連携強化を図るために設置する山口大学と山口県との連携 推進協議会(以下「協議会」という。)に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 協議会は、次の事項について審議する。

- (1) 山口大学と山口県との連携に係る総合的調整に関する事項
- (2) 山口大学と山口県との共同研究の推進方策に関する事項
- (3) その他山口大学と山口県との連携に関し必要な事項

(組織)

第3条 協議会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 山口大学関係委員
 - ア 副学長(国際・地域連携担当)
 - イ 地域連携推進センター長
 - ウ 学長戦略部長
 - エ 学長戦略部国際・地域連携課長
 - オ 学生支援部教育支援課長
 - カ 学術研究部研究推進課長
- (2) 山口県関係委員
 - ア 総合企画部長
 - イ 総合企画部政策企画課長
 - ウ 総務部学事文書課長
 - エ 商工労働部新産業振興課長
 - オ 教育庁教育政策課長

<省 略>

(出典：国立大学法人山口大学と山口県との連携推進協議会要項)

<山口大学と山口市との連携・協力体制>

国立大学法人山口大学・山口市連絡協議会設置要項

(目的)

第1条 国立大学法人山口大学と山口市との包括的連携・協力に関する協定書(平成 17 年9月 28 日締結)第4条に定める協議のため、国立大学法人山口大学・山口市連絡協議会(以下「連絡協議会」という。)を置く。

(協議事項)

第2条 連絡協議会は、次の事項について協議する。

- (1) 連携・協力事項の推進に関する事
- (2) その他連携・協力に関する事

(組織)

第3条 連絡協議会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 山口大学
 - ア 副学長(国際・地域連携担当)
 - イ 地域未来創生センター長
 - ウ その他国立大学法人山口大学が必要と認める者
- (2) 山口市
 - ア 総合政策部長
 - イ 総合政策部次長
 - ウ その他山口市が必要と認める者

<省 略>

(出典：国立大学法人山口大学・山口市連絡協議会設置要項)

II-2 産学公連携による地域貢献

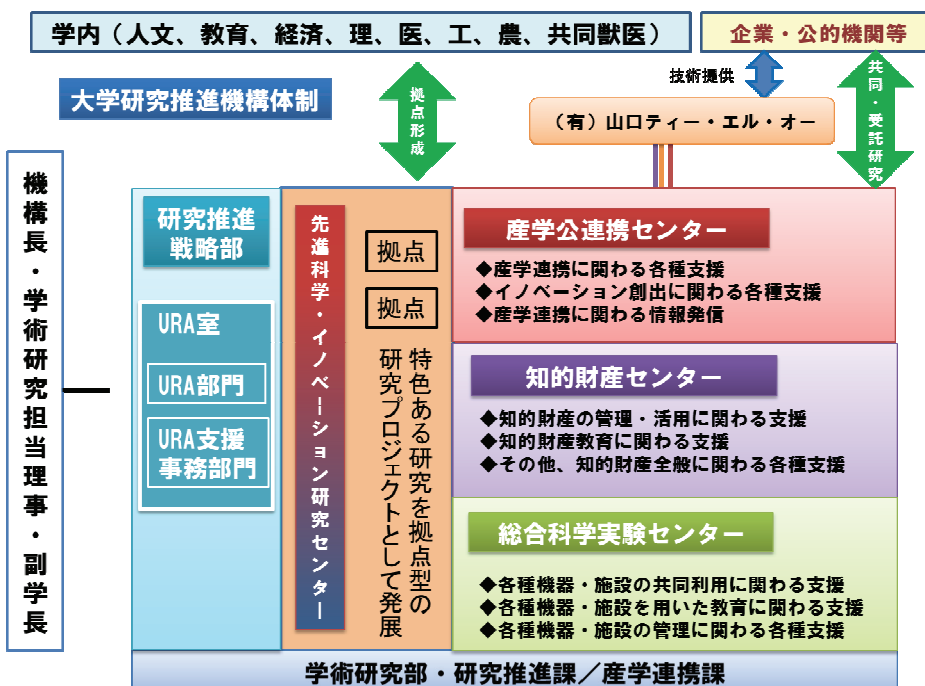
大学研究推進機構に各種センターを設置し、企業、自治体と連携した地域発イノベーション創出に向けた事業を推進している。産学公連携センターでは、展示会・新技術説明会等でのシーズ情報の発信、産学連携コーディネータによる技術相談、やまぐち事業化支援・連携コーディネート連絡会議の活動等により、共同研究及び受託研究のマッチングを行っている。知的財産センターでは、知的財産教育の普及による地域経済の発展を目的に、学外教育機関への教育支援(5年間で132校15,790人)や企業等向けセミナー等(5年間で52ヶ所3,520人)を開催している。総合科学実験センターでは、機器分析実験施設と遺伝子実験施設を開放し、24年度から「次世代シーケンサを用いた遺伝子受託解析」を開始した。

また、23年度には、地域の強みである省エネ・環境・マテリアル技術分野の産官学共同研究推進のため、科学技術振興機構により本学に設備が整備され、「やまぐちイノベーション創出推進拠点」として、企業等に研究機器を提供している。県・企業・大学が連携し、医療関連産業の育成・集積を目指す「やまぐち医療関連成長戦略推進会議」に参画するとともに、事業化に結びつく先導的研究を支援する「やまぐち産業戦略研究開発等補助金」を活用し、企業と連携して、がん治療の高度化、再生医療の推進、蓄電池に関連する研究開発等を推進している。

企業との包括的連携協定に基づき、宇部興産(株)からは、26年度より主任研究員を在籍のまま教授に招聘し、(株)トクヤマ徳山製造所からは講師を招聘して、学部生に「環境ビジネス論」、院生に「総合理工学特別講義」の講義を実施している。26年、三菱化学(株)及び(株)MOT総合研究所と植物工場に係る総合的な共同研究開発を実施し、また、27年、山口銀行及び(株)MOT総合研究所と協定を締結した上で、日本初の銀行及び県内企業の出資によるクラウドファンディング運営会社の創設に協力し、本学の実践的なイノベーション人材育成プログラムと併せて、創業者教育を推進することとなった(資料B-1-②-7, 別添資料B-1-②-ウ)。

資料B-1-②-7：産学公連携による地域貢献

＜大学研究推進機構の体制＞



(出典：大学研究推進機構資料)

<共同研究及び受託研究の実施状況>

区分		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	合計	5年間の平均
共同研究	件数	186	195	203	204	190	978	195.6
	金額(百万円)	281	275	276	253	362	1447	289.4
受託研究	件数	108	136	138	151	138	671	134.2
	金額(百万円)	685	759	742	957	827	3970	794.0
合計	件数	294	331	341	355	328	1649	329.8
	金額(百万円)	966	1034	1018	1210	1189	5417	1083.4

注)百万円未満四捨五入

(出典：大学研究推進機構作成)

<知的財産セミナーの開催状況>

(3) 学外機関への知財教育支援・知財セミナーの開催

周辺教育機関(大学、高専、高校)への知財教育支援、行政機関や周辺企業への知財セミナー等を実施し、学外機関へも知財の普及・啓発を図った。(表3、表4、写真7、写真8参照)

表3 周辺教育機関(大学、高専、高校)への開催状況

開催年度	参加機関数、参加者数
平成17年度	9校
平成18年度	8校
平成19年度	13校
平成20年度	26校、約3630名
平成21年度	32校、約3450名
平成22年度	29校、約1940名
平成23年度	32校、約2980名
平成24年度	24校、約4780名
平成25年度	15校、約2630名

表4 行政機関や周辺企業への開催状況

開催年度	参加機関数、参加者数
平成16年度	11ヶ所、約950名
平成17年度	20ヶ所、約1950名
平成18年度	33ヶ所、約3100名
平成19年度	20ヶ所、約2200名
平成20年度	17ヶ所、約1610名
平成21年度	15ヶ所、約990名
平成22年度	8ヶ所、約730名
平成23年度	16ヶ所、約740名
平成24年度	6ヶ所、約270名
平成25年度	7ヶ所、約790名

※講師：知的財産センター長 佐田 洋一郎



写真7 周辺教育機関向け知財セミナー



写真8 行政機関や周辺企業向け知財セミナー

(出典：本学Webページ「平成25年度大学研究推進機構年報」67頁)

＜やまぐちイノベーション創出推進拠点＞

地域産学官共同研究拠点整備事業の概要

本事業は、科学技術振興機構（JST）によって設備が整備され、地域における産学官連携の総合的な取り組みを加速することにより、地域の特色を活かした産学官共同研究を推進するとともに、地域における関連人材の育成や研究成果の企業への展開を図ることを目指すものです。

- ▶ 地域の強みを生かした産学官共同研究の実施
- ▶ 産学官共同研究で開発された装置の設備・共用による地域企業への成果の普及
- ▶ 共同利用装置設置による中堅・中小企業の技術高度化の支援
- ▶ 装置等の利用を通じた高度技術者の養成
- ▶ 地域の産学連携推進部門・知的部門・各種コーディネータ等の集積の高度化

『やまぐちイノベーション創出推進拠点』として山口県には山口大学（常盤キャンパス）と山口県産業技術センターに、地域企業の皆様にご利用いただける各種の設備・機器が設置されています。

- ・山口大学 大学研究推進機構内 … 30 装置
- ・山口県産業技術センター …… 4 装置

これらに加え、2 機関が従来から保有しているオープン利用機器もご利用いただけます。

利用時間は平日 9 時～17 時。技術支援員が機器操作をサポートしてくれるよ！
<http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/innovation/> から申請書をダウンロードして、利用登録してね。ID・パスワード発行後、ウェブから簡単に予約できるよ。

【LED 用サファイア加工基板】

* 画像提供：山口大学 只友一行教授

SEM 7kV電界放出形走査電子顕微鏡
日本電子株式会社 JSM-7600F

セミンレンズ対物レンズにより、高分解能・高画質を実現しており、0.1～3kVの低加速電圧での高分解能観察が可能です。試料の最表面の観察が可能です。非導電性試料をそのまま観察することも可能です。

【マイクロカプセルの断面観察】

エマルションを利用して無機マイクロカプセルを調製し、良好な中空構造を有する条件を検討しています。* 画像提供：山口大学 通阪栄一准教授

FIB 集束イオンビーム加工観察装置
日本電子株式会社 JEM-9320FIB

集束イオンビームによる試料加工装置です。特定部位の STEM・TEM 試料作製および SEM 観察用の試料断面加工が容易に行えます。また、断面加工と SIM 観察により表層部構造や粒子断面の観察に有効です。

(出典：やまぐちイノベーション創出推進拠点のパンフレット)

＜産学公連携の取組状況＞

山口大学大学研究推進機構年報(25 年度)	http://kenkyu.yamaguchi-u.ac.jp/sangaku/data/icmag/report/No23.pdf
やまぐち事業化支援・連携コーディネート連絡会議	http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/cay/
次世代シーケンサを用いた遺伝子受託解析	http://gene.yamaguchi-u.ac.jp/Kenkyuu-sien/jisedaiseq.html
やまぐちイノベーション創出推進拠点	http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/innovation/index.php?submode=mcyi_main
やまぐち医療関係成長戦略推進会議	http://www.pref.yamaguchilg.jp/cmsdata/d/a/5/da57a900ff3c54c59012fe5d3e12e717.pdf
やまぐち産業戦略研究開発等補助金	http://www.pref.yamaguchilg.jp/cmsdata/d/e/7/de7af4df9b674c5fb141cbe21921882b.pdf http://www.pref.yamaguchilg.jp/cmsdata/9/2/0/920b14508b3dad15378b7f6029deb304.pdf
宇部興産研究員の在籍出向	http://www.yamaguchi-u.ac.jp/topics/2015/_4203.html
植物工場全般に係る共同研究開発等	http://www.yamaguchi-u.ac.jp/weeklynews/_3434/_3696.html
起業家育成等の創業支援による地域活性化等	http://www.yamaguchi-u.ac.jp/weeklynews/2014/_4079.html

(出典：本学 Web ページ等)

II-3 地域との交流活動

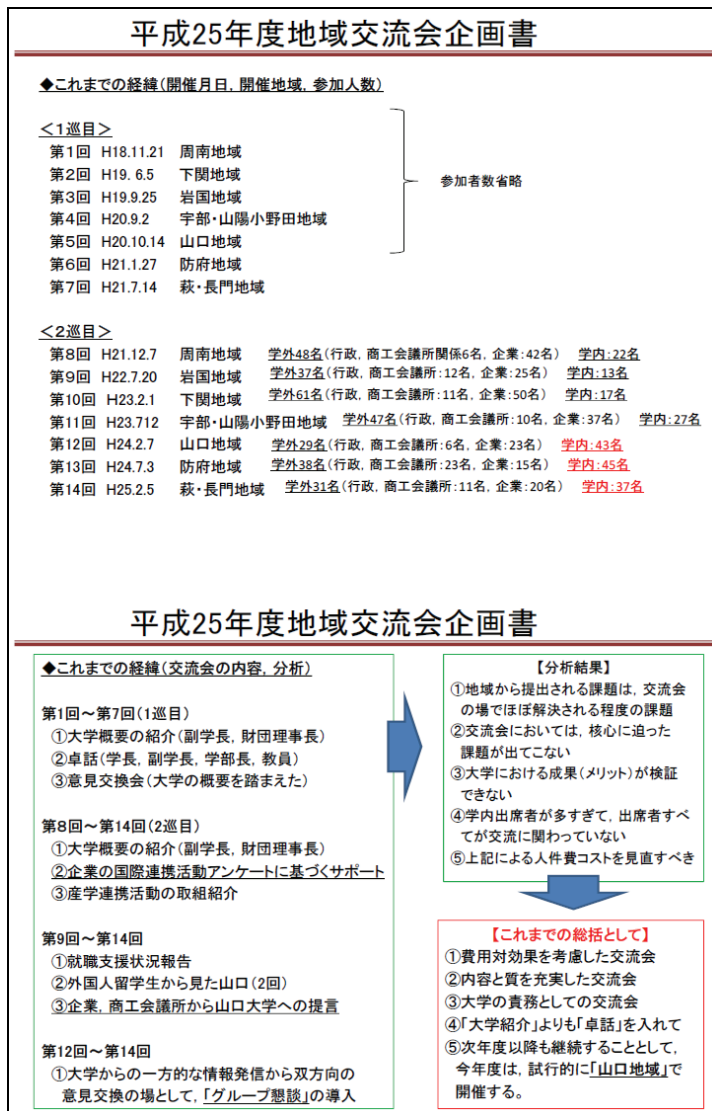
平成18～24年度、地域の行政や企業等との意見交換の場として、山口県の七つの地域を2巡し「地域と山口大学との交流会」を開催した。1巡目は、本学の概要紹介などの広報活動を中心に、2巡目は、企業及び商工会議所からの提言を受け、2巡目後半には、意見交換の場としてグループ懇談を導入した。

23年度には、文部科学省と本学の主催で「熟議 in やまぐち」を実施した。当日は、11のグループに分かれ、最先端研究からまちづくりまでのテーマで、討議を行った。また、24年度には、山口市、阿武町及び周防大島町の県内3か所で、本学独自の「熟議キャラバン2012」を開催した。

これらの交流会及び熟議の成果を踏まえて、26年度から「地域創生キャラバン in やまぐち」を開催し、第1回目は「大学と地域がこれからできること」及び「10年後の未来のやまぐち」についての意見をまとめ発表を行い、約60人が参加した。第2回目は、「地域の雇用創出、地元定着率の向上」に特化し、山口県、山口市、宇部市の行政職員各4人と本学教職員8人の計20人が討議を行った(資料B-1-②-8)。

資料B-1-②-8：地域との交流活動

<「地域と山口大学との交流会」の開催状況>



(出典：地域未来創生センター作成)

<「熟議 in やまぐち」等の開催状況>

熟議 in やまぐち報告書	http://www.ext.yamaguchi-u.ac.jp/chiiki/jukugi/jukugiinyamaguchi.pdf
熟議 in キャラバン 2012 報告書	http://www.ext.yamaguchi-u.ac.jp/chiiki/jukugi/jukugihudo.pdf

2012 発見し、はぐくみ、かたちにする知の広場
～実りある知の循環をつくりだすために～

地域社会が抱える課題をどのように解決していけばよいのでしょうか。
このような課題にわれわれはどのように向き合えばよいのでしょうか。
山口大学の「知の広場」に集まり、「熟議」を通じてみんなで考えてみましょう。
実りある知の循環をつくりだす第一歩に参加してみませんか。

参加費：無料

<p>プログラム</p>	<p>10:00 開場 (受付開始)</p> <p>◆ 第1部 (開会・シンポジウム) 10:30~12:00</p> <p>10:30 開会、主催者挨拶、文部科学省挨拶、来賓挨拶</p> <p>11:00 シンポジウム 「山口大学の知の広場とは」</p> <p>12:00 休憩</p>	<p>◆ 第2部 (グループ熟議) 13:00~17:00</p> <p>13:00 グループ熟議</p> <p>15:00 交流・ディスカッションタイム</p> <p>15:30 プレゼンテーション</p> <p>16:30 講評</p> <p>17:00 閉会</p>	<p>◇ 意見交換会・交流会 17:00~18:30</p>
---------------------	--	--	--------------------------------

熟議テーマ 次のサブテーマA・B・Cに分かれてグループ熟議を行います。

<p>A 「究める(研究)」</p> <p>大学が研究する意義を考えてみませんか？</p> <p>キーワード ① 最先端研究 ② 地域連携型研究 ③ 文学・人間</p>	<p>B 「育てる(教育)」</p> <p>社会を元気にする人材育成とは？</p> <p>キーワード ④ 基礎学力 ⑤ コミュニティスクール ⑥ 就職</p>	<p>C 「つながる(地域づくり)」</p> <p>人々がどのようにつながることが社会を元気にしていけるのでしょうか。</p> <p>キーワード ⑦ 健康 ⑧ 安心・安全 ⑨ 農村の再生 ⑩ まちづくり</p>
---	--	--

熟議 (じゅくぎ) とは？ 熟議とは、多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねながら政策を形成していくことです。具体的には、政策を形成する際の、下記のようなプロセスのことを言います。

① 多くの当事者が集まって、② 課題について学習・熟慮し、議論をすることにより、
③ 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、④ 解決策が洗練され、
⑤ 個々人が納得して自分の役割を果たすようになる。

詳しくは、文部科学省のサイト「熟議カケアイ」をご覧ください。 <http://jukugi.mext.go.jp/>

「熟議 in やまぐち」参加申込書 申込締切：2月28日(火)
先着80名(定員になり次第締め切り)

FAX・E-mailにてお申込み下さい。

(出典：本学 Web ページ)

<「地域創生キャラバン in やまぐち」の開催状況>

1回目	http://www.yamaguchi-u.ac.jp/topics/2014/3879.html
2回目	http://www.yamaguchi-u.ac.jp/weeklynews/2014/4117.html

(出典：本学 Web ページ)

Ⅲ 高度な地域医療の推進

医学部附属病院は、病床数736床、28診療科と23の診療部を擁し、あらゆる分野の疾患を総合的に診療できる県内唯一の特定機能病院である。23年1月から運航を開始した山口県ドクターヘリの基地病院として、生命に関わる3次救急疾患等を対象に24時間体制で全県下からの重症患者に対応している。また、山口県のがん診療連携拠点病院及び肝疾患診療連携拠点病院に指定され、県内医療機関等と連携協議会を設置し、クリニカルパス等を作成して、がん・肝疾患の治療や啓発に取り組み、「中四国高度がんプロ養成基盤プログラム」の推進、がん専門医養成コースによる専門医の養成、がん診療に携わる医師のための緩和ケア研修等を実施している。また、培養自己骨髄細胞による肝臓再生療法等の研究を進め、先進医療を推進するとともに、ケーブルビジョンを活用して、世界をリードする研究の紹介や、一般市民対象の講演会等を開催している。

- 30 -

教育学研究科臨床心理センターでは、子どもの不登校、発達上の問題や職場での対人関係の悩みなどを臨床心理学の立場から支援し、動物医療センターでは、西日本における紹介専門の中核病院として、年間約8,000件の高度獣医療の推進や地域の獣医師を対象とした「総合臨床セミナー」等を開催している(資料B-1-②-9)。

資料B-1-②-9：高度な地域医療の推進

<医学部附属病院の利用状況>

区分		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	合計	5年間の平均
患者数	入院患者数	237,161	235,729	235,578	232,485	238,359	1,179,312	235,862
	外来患者数	311,759	306,176	308,262	313,040	308,864	1,548,101	309,620
	合計	548,920	541,905	543,840	545,525	547,223	2,727,413	545,483
救急患者数	7,588	7,631	8,012	7,911	7,495	38,637	7,727	
臨床検査件数	2,958,097	3,080,931	3,094,340	240,396	245,854	9,619,618	1,923,924	
放射線診断業務量(件数)	入院	844	789	1,963	721	699	5,016	1,003
	外来	1,112	1,076	2,713	1,063	1,007	6,971	1,394
	合計	1,956	1,865	4,676	1,784	1,706	11,987	2,397
放射線治療業務量(件数)	入院	5,493	6,071	6,285	6,167	6,847	30,863	6,173
	外来	3,292	3,213	3,135	3,825	4,707	18,172	3,634
	合計	8,785	9,284	9,420	9,992	11,554	49,035	9,807

(出典：医学部附属病院作成)

<高度な地域医療の推進に向けた取組>

医学部附属病院高度救命救急センター	http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~amec/
医学部附属病院ドクターヘリ	http://drhel.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/about/
がん診療連携拠点病院	http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/designation/bhu.html
山口県肝疾患診療連携拠点病院	http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/designation/bhh.html
山口県肝疾患診療連携協議会	http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~kanzou/kyogikai.html
医学部附属病院クリニカルパス等	http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~kanzou/pass.html (肝疾患地域連携) http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~kanzou/passport.html (肝炎パスポート) http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~shuyou/shinryorenkei.html (がん診療連携)
中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム	http://ganpro.med.yamaguchi-u.ac.jp/index.html
がん専門医養成コース	http://ganpro.med.yamaguchi-u.ac.jp/course/index.html
がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会	http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~shuyou/osirase/kanwa.html
山口ケーブルビジョンによる最先端研究紹介	http://www.med.yamaguchi-u.ac.jp/public/
医学部附属病院先進医療	http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/about/advanced-medical.html
培養自己骨髄細胞による低侵襲な肝臓再生療法の臨床研究開始	http://www.yamaguchi-u.ac.jp/topics/2014/3732.html
教育学研究科附属臨床心理センター	http://psycho.edu.yamaguchi-u.ac.jp/cpsc/index.html
共同獣医学部附属動物医療センター	http://ds22v.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~yuamec1/
共同獣医学部附属動物医療センター総合臨床セミナー	http://ds22n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~yuamec1/news/files/20150205141659/RENAME_7e22a83c2267356e742644568c3d5e78.pdf

(出典：本学Webページ等)

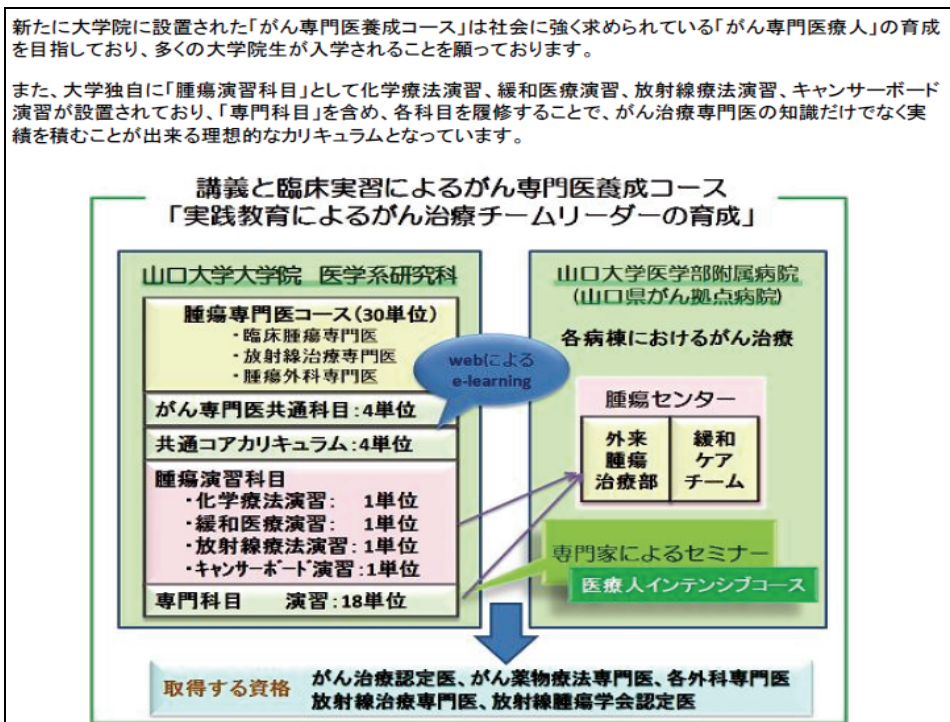
＜本学ドクターヘリへの機関等別出動要請状況＞

平成23年1月21日～平成25年1月20日

機 関 等	出 動	内 訳		
		現場出動	病院間搬送	途中 キャンセル
岩国地区消防組合消防本部	3	2	1	0
柳井地区広域消防組合消防本部	17	4	12	1
光地区消防組合消防本部	7	5	0	2
下松市消防本部	9	1	8	0
周南市消防本部	8	3	4	1
徳山中央病院	21	0	21	0
防府市消防本部	7	2	5	0
山口市消防本部	70	43	17	10
県立総合医療センター	7	0	7	0
美祢市消防本部	46	35	10	1
宇部・山陽小野田消防局(宇部市管内)	22	19	0	3
宇部・山陽小野田消防局(山陽小野田市管内)	16	15	1	0
医学部附属病院	3	0	3	0
下関市消防局	27	21	5	1
関門医療センター	8	0	8	0
済生会下関総合病院	10	0	10	0
長門市消防本部	84	18	64	2
萩市消防本部	47	11	33	3
合 計	412	179	209	24

(出典：本学Web ページ)

＜がん専門医養成コース＞



(出典：医学部資料)

別添資料

別添資料B-1-②-ア：地域未来創生センターが実施した地域貢献活動実績調査票（22年度～26年度）

別添資料B-1-②-イ：山口県及び市町関係審議会委員等就任状況

別添資料B-1-②-ウ：平成25年度山口大学大学研究推進機構年報（産学公連携による活動報告を抜粋）

【分析結果とその根拠理由】

地域の生涯教育及び文化活動への貢献として、公開講座、教員免許状更新講習、学生による地域貢献活動、県内の大学等と連携した企画展やWebを活用した情報発信、シンポジウム等を実施している。地方自治体や企業等と包括連携協定を締結し、各種審議会委員として幅広い分野で連携し、地域の企業と共同研究及び受託研究等を推進している。さらに、医学部附属病院による高度な医療の提供等、安全・安心な地域社会の実現に取り組んでいる。

以上のことから、計画に基づいた活動が適切に実施されていると判断できる。

観点B-1-③： 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

【観点到係る状況】

本学の生涯教育活動に係る過去5年間の平均参加者数は、公開講座594人、開放授業90人、また、出前講義では48人の講師を派遣しており、公開講座の6割が、約80%を超える充足率(受講者数/定員)を示している。26年度の「公開講座の満足度」は、「ある程度」以上満足が95%、同じく「講師の満足度」では、97%であり、講座及び講師に対する満足度は極めて高く、受講生のうち58%が複数回受講している(資料B-1-③-1)。また、一般市民に開放している図書館は、26年度に約1万4千人の学外利用者があり、貸出冊数は約3千冊である(資料B-1-③-2)。

教員免許状更新講習の受講者数は、5年間で1万5千人を超えている。26年度は、「講習の内容・方法」、「最新の知識・技術の修得成果」及び「講習の運営面」の評価項目の全体平均で、必修領域95.4%及び選択領域97.2%の人が高い満足度を示し、高い評価となっている。FD・SD講演会の26年度の満足度は、「良かった」以上の回答が86.9%を占め、また、「山口県大学ML連携特別展」は、新たに2大学3館が参加し、見学者は1,500人になった(資料B-1-③-3)。

共同研究及び受託研究の実績では、受入件数が、23年度以降年間300件以上で推移し、受入金額は、22年度に比して26年度は2億2千万円増加している(資料B-1-③-4)。

医学部附属病院では、県内唯一の特定機能病院として、過去5年間の平均で、外来患者309,620人、入院患者235,862人、救急患者7,727人を受け入れている。26年度 of 患者満足度では、病院全体の満足度について、外来患者の十段階評価で7点以上の評価は89.6%で、不満の回答は2.3%と少なく、また、入院患者の7点以上の評価は92.6%で、不満の回答は0.5%と患者の病院に対する満足度は高い(資料B-1-③-5)。

資料B-1-③-1：公開講座、開放授業及び出前講義の実施状況及び満足度

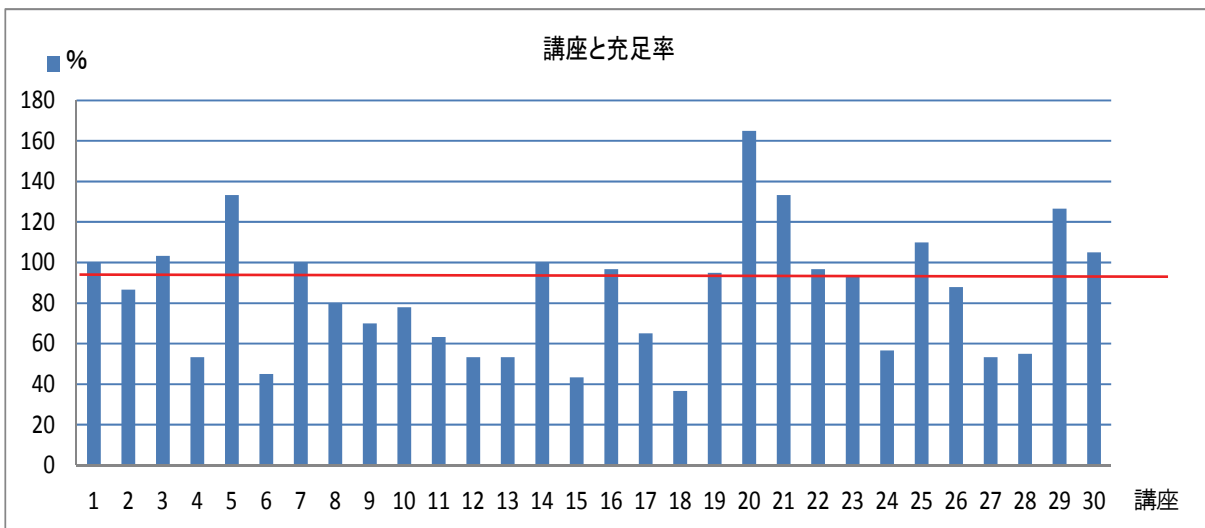
＜公開講座、開放授業及び出前講義の実施状況＞（再掲）

区分		平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	合計	5年間 の平均
公開講座	開設講座数（講座）	19	17	22	25	30	113	22.6
	参加者数（人）	529	475	570	703	693	2,970	594.0
開放授業	開放授業科目数（科目）	33	46	34	24	36	173	34.6
	参加者数（人）	98	121	119	43	71	452	90.4
出前講義	出前講義実施件数	71	71	61	64	52	319	63.8
	派遣教員数（人）	49	47	51	50	42	239	47.8

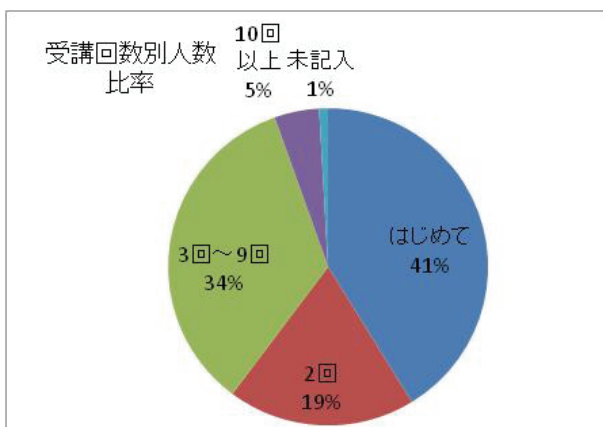
（出典：地域未来創生センター作成）

＜平成26年度公開講座充足率及びアンケート調査結果(抜粋)＞

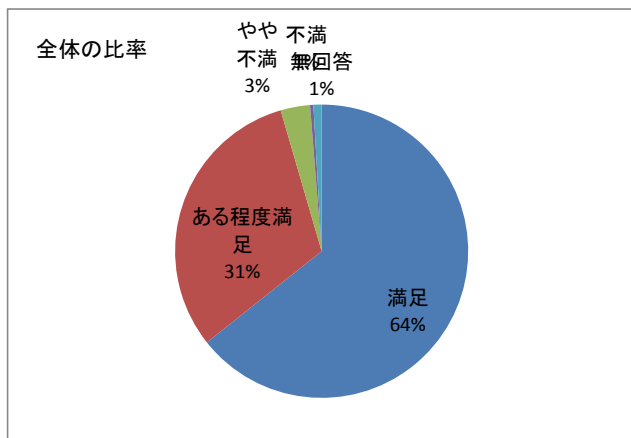
1.各講座の充足率(受講者数/定員)



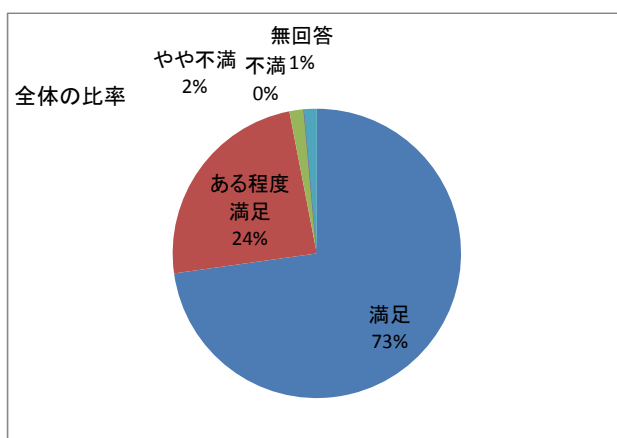
5.受講生の受講回数



10.講座に対する満足度



11.講師に対する満足度



(出典：地域未来創生センター作成)

資料B-1-③-2：平成26年度図書館利用状況（再掲）

開館状況

館名	開館日数(日)			年間入館者数(人)								合計
	平日		土曜・日曜・祝日	身分別			開館時間帯別			合計		
	時間内	時間外		教職員	学生	学外者	平日	土曜・日曜・祝日	無人開館			
総合図書館	239	160	95	334	17,359	313,354	7,841	269,232	32,019	37,303	0	338,554
医学部図書館	237	194	95	332	8,489	107,053	2,630	63,659	4,613	7,102	42,798	118,172
工学部図書館	237	160	73	310	3,086	77,284	3,464	68,802	7,541	7,491	0	83,834
合計	-	-	-	-	28,934	497,691	13,935	401,693	44,173	51,896	42,798	540,560

貸出状況

館名	身分別							開館時間帯別(冊)					計
	教職員		学生		学外者		計	平日		土曜・日曜・祝日	無人開館	計	
	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数		時間内	時間外				
総合図書館	1,041	3,784	12,895	47,219	551	1,917	14,487	52,920	37,060	9,042	6,818	0	52,920
医学部図書館	459	1,551	3,029	10,855	157	474	3,645	12,880	6,989	1,782	745	3,364	12,880
工学部図書館	425	1,653	3,899	12,660	242	681	4,566	14,994	11,481	2,194	1,319	0	14,994
合計	1,925	6,988	19,823	70,734	950	3,072	22,698	80,794	55,530	13,018	8,882	3,364	80,794

(出典：大学情報機構作成)

資料B-1-③-3：教員免許状更新講習の実施状況及び満足度

<教員免許状更新講習の実施状況>(再掲)

区分		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	合計	5年間の平均
必修領域	開設講習数(講習)	5	5	5	5	5	25	5.0
	受講者数(人)	750	859	834	756	763	3962	792.4
選択領域	開設講習数(講習)	89	95	96	92	94	466	93.2
	受講者数(人)	1918	2578	2500	2058	2004	11058	2211.6
合計	開設講習数(講習)	94	100	101	97	99	491	98.2
	受講者数(人)	2668	3437	3334	2814	2767	15020	3004.0

(出典：大学教育機構作成)

< 教員免許状更新講習事後評価アンケート結果 >

平成26年度更新講習事後評価アンケート結果

※ 評価基準			
4:よい(十分満足した・十分成果を得られた)		3:だいたいよい(満足した・成果を得られた)	
2:あまり十分でない(あまり満足しなかった・あまり成果を得られなかった) 1:不十分(満足しなかった・成果を得られなかった)			

1) 必修領域

受講 予定人 数	受講人 数	評価項目Ⅰ (講習の内容・方法)				評価項目Ⅱ (最新の知識・技能の修得の成果)				評価項目Ⅲ (講習の運営面)				全体平均			
		4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
920人	763人	336人	380人	45人	0人	383人	344人	33人	2人	459人	278人	22人	3人	393人	334人	33人	2人
割合		44.2%	49.9%	5.9%	0.0%	50.3%	45.1%	4.3%	0.3%	60.2%	36.5%	2.9%	0.4%	51.6%	43.9%	4.4%	0.2%
		94.1%		5.9%		95.4%		4.6%		96.7%		3.3%		95.4%		4.6%	

回答者数 761人

回答者数 762人

回答者数 762人

回答者数 762人

2) 選択領域

受講 予定人 数	受講人 数	評価項目Ⅰ (講習の内容・方法)				評価項目Ⅱ (最新の知識・技能の修得の成果)				評価項目Ⅲ (講習の運営面)				全体平均			
		4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
3,231人	2,004人	1,363人	573人	57人	9人	1,317人	625人	51人	7人	1,435人	522人	36人	6人	1,372人	573人	48人	7人
割合		68.1%	28.6%	2.8%	0.4%	65.9%	31.3%	2.6%	0.4%	71.8%	26.1%	1.8%	0.3%	68.6%	28.7%	2.4%	0.4%
		96.7%		3.3%		97.1%		2.9%		97.9%		2.1%		97.2%		2.8%	

回答者数 2,002人

回答者数 2,000人

回答者数 1,999人

回答者数 2,000人

(出典：大学教育機構作成)

< 平成26年度FD・SD 講演会アンケート結果・出席状況 >

設問1 研修会に参加した感想はいかがでしたか。

選択肢	人数	割合(%)
非常に良かった	21	21.2
良かった	65	65.7
どちらとも言えない	10	10.1
あまり良くなかった	1	1.0
良くなかった	1	1.0
無回答	1	1.0
合計	99	100.0

出席状況	26年度	25年度
山口大学	106	88
山口県立大学	7	4
徳山大学	5	13
山口学芸大学	8	8
東亜大学	1	3
下関市立大学	4	0
至誠館大学	4	0
水産大学	3	0
合計	138	116

(出典：FD 報告書)

< 山口県大学 ML 連携事業報告(平成 26 年度)(抜粋) >

参加館が共通テーマに沿って各大学や館の特性を生かした学術資料または研究成果の展示を開催するという現行体制での2年目となった平成26年度は、新たに2大学3館(岩国短期大学附属図書館、東亜大学附属図書館、山口大学医学部図書館)が参加することとなり、11大学15館(下記「事業の実施体制」参照)での事業開催となった。

< 省 略 >

この間、平成26年6月19日～20日に開催された第17回大学博物館等協議会・第9回博物科学会にて当事業に関する研究発表(山口大学:横山・吉光)が、平成26年7月12日には西日本図書館学会山口支部研究会にて事例報告(至誠館大学:藤本)が行われ、博物館・図書館両業界へ当事業の独自性が強くアピールされたことも成果の一つに数えられる。

平成26年10月、予定通り「山口県大学 ML 連携特別展」は開幕し、期間中計測されただけ(図書館での開催は見学者を正確にカウントすることが困難)でもおよそ1,500名もの方々に見学いただいた。スタンプラリーも最終的に4館達成者が39名、8館達成者が20名と、昨年度を大きく上回った。

(出典：山口県大学 ML 連携事業報告 (平成 26 年度))

資料B-1-③-4：共同研究及び受託研究の実施状況（再掲）

区分		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	合計	5年間の平均
共同研究	件数	186	195	203	204	190	978	195.6
	金額（百万円）	281	275	276	253	362	1447	289.4
受託研究	件数	108	136	138	151	138	671	134.2
	金額（百万円）	685	759	742	957	827	3970	794.0
合計	件数	294	331	341	355	328	1649	329.8
	金額（百万円）	966	1034	1018	1210	1189	5417	1083.4

注)百万円未満四捨五入

(出典：大学研究推進機構作成)

資料B-1-③-5：医学部附属病院の利用状況及び満足度

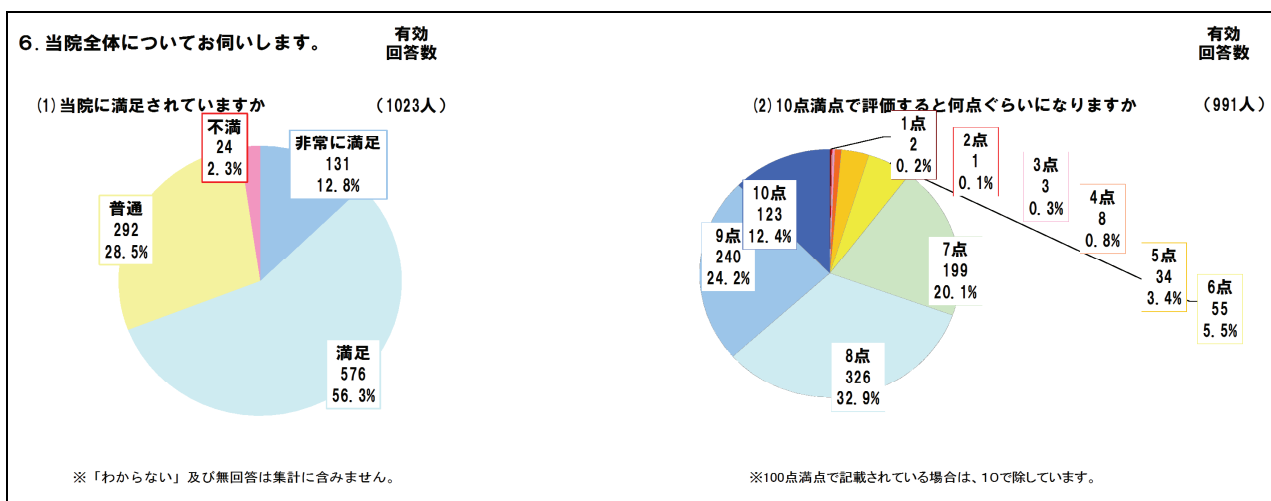
＜医学部附属病院の利用状況＞（再掲）

区分		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	合計	5年間の平均
患者数	入院患者数	237,161	235,729	235,578	232,485	238,359	1,179,312	235,862
	外来患者数	311,759	306,176	308,262	313,040	308,864	1,548,101	309,620
	合計	548,920	541,905	543,840	545,525	547,223	2,727,413	545,483
救急患者数		7,588	7,631	8,012	7,911	7,495	38,637	7,727
臨床検査件数		2,958,097	3,080,931	3,094,340	240,396	245,854	9,619,618	1,923,924
放射線診断業務量（件数）	入院	844	789	1,963	721	699	5,016	1,003
	外来	1,112	1,076	2,713	1,063	1,007	6,971	1,394
	合計	1,956	1,865	4,676	1,784	1,706	11,987	2,397
放射線治療業務量（件数）	入院	5,493	6,071	6,285	6,167	6,847	30,863	6,173
	外来	3,292	3,213	3,135	3,825	4,707	18,172	3,634
	合計	8,785	9,284	9,420	9,992	11,554	49,035	9,807

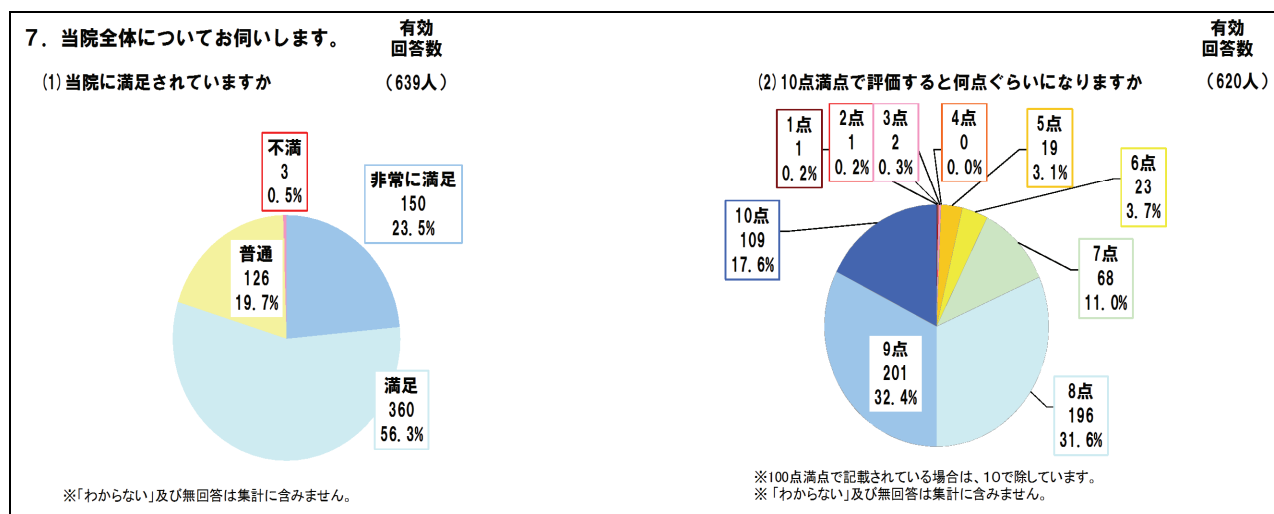
(出典：医学部附属病院作成)

＜平成26年度患者満足度調査等アンケート結果＞

＜外来患者＞



<入院患者>



(出典：医学部附属病院資料)

【分析結果とその根拠理由】

生涯教育活動及び教員免許状更新講習は、毎年度一定規模の参加者があり、受講生の満足度は高く、公開講座の受講生のうち過半数が複数回以上参加している。共同研究及び受託研究の件数は、23年度以降年間300件以上で推移し、受入金額も増加している。医学部附属病院においては、県内唯一の特定機能病院として患者を受け入れ、患者の満足度も高い。

以上のことから、活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっていると判断できる。

観点B-1-④： 改善のための取組が行われているか。

【観点到に係る状況】

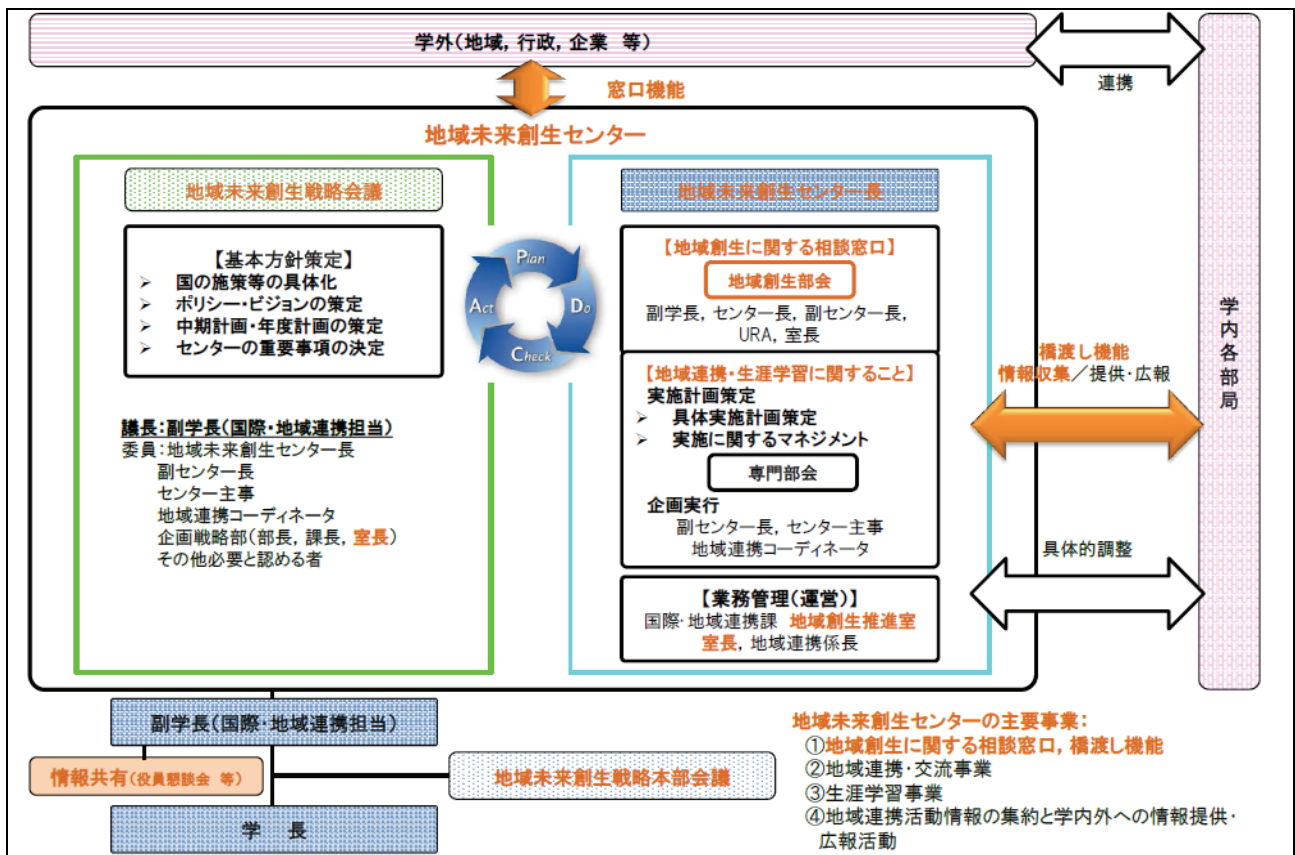
地域貢献のための実施体制として、学長を本部長とし、副学長を構成員とする「地域未来創生戦略本部」を置き、また、国際・地域連携担当の副学長をセンター長とする「地域未来創生センター」を設置し、センター主事及び地域連携コーディネーターを配置している。センターには「地域未来創生戦略会議」を置き、活動方針に沿って事業を推進するとともに、学内の地域貢献活動の情報を集約(別添資料B-1-②-ア)し、また、アンケート調査等の結果を踏まえた改善のための取組を行っている。また、各年度の地域貢献活動の状況と自己点検・評価の結果は、「山口大学活動白書」に掲載し、Web ページで公表している(資料B-1-④-1, 資料B-1-④-2, 資料B-1-④-3, 資料B-1-④-4)。

現在の実施体制は、社会のニーズに対応して、その目的を「生涯学習の地域への提供」から「広く地域貢献活動の実施」、さらには「地域社会の創生に資する活動の実施」と広げ、それに伴う組織改編を経て構築されたものである。これらの組織再編にあたっては、本学の地域貢献活動に係る現状と課題についての総括(別添資料B-1-④-ア)を行い、その結果として地方創生アドバイザー(COC コーディネータ、客員教授)を新たに配置し、「知の拠点大学による地方創生推進事業」(文部科学省プロジェクト)の将来構想を取りまとめた(資料B-1-④-5, 資料B-1-④-6)。

具体的取組の改善例としては、観点B-1-②のII-3「地域との交流活動」で取り上げた「地域と山口大学

との交流会」が、「熟議 in やまぐち」や「熟議キャラバン 2012」を通して収集した意見・要望に基づき、自治体・企業・NPO・大学等が対話し、地域の課題を検討する場としての「地域創生キャラバン in やまぐち」の開催へと発展し、フューチャーセッションを実施して地域の未来について討議されたことは意義深いと言える(資料B-1-④-7, 前掲資料B-1-②-8)。また、公開講座等の受講者間の交流の機会として、「受講生の集い」を開催し、併せて、受講生の生の声を聴取している。アンケート集計結果を、企画募集の際に教職員へ周知し、受講生のニーズを把握して企画することで、複数回の受講の実績に繋がっている点は改善の成果と言える(資料B-1-④-8, 資料B-1-④-9)。

資料B-1-④-1：山口大学の地域連携実施体制



(出典：地域未来創生センター作成)

資料B-1-④-2：地域未来創生戦略本部，地域未来創生センター，地域未来創生戦略会議の目的と構成

国立大学法人山口大学地域未来創生戦略本部要項
(設置)
第1条 国立大学法人山口大学(以下「本法人」という。)に、本法人と地域社会との連携や協力に係る戦略の企画、立案及び実施に向けた方策を決定するため、地域未来創生戦略本部(以下「戦略本部」という。)を置く。
(業務)
第2条 戦略本部は、次の業務を行う。
(1) 地域社会との連携や協力に係る戦略に関すること。
(2) その他地域連携戦略に係る重要事項に関すること。
(組織)
第3条 戦略本部は、本部長、副本部長及び本部員をもって組織する。
2 本部長は、学長をもって充て、戦略本部の業務を総括する。
3 副本部長は、副学長(国際・地域連携担当)をもって充て、本部長を補佐する。
4 本部員は、各副本部長(国際・地域連携担当を除く。)をもって充て、戦略本部の業務を処理する。

<p>(地域未来創生戦略本部会議)</p> <p>第4条 戦略本部に地域未来創生戦略本部会議(以下「本部会議」という。)を置き、本部長、副本部長及び本部員をもって組織する。</p> <p>2 本部会議は、第2条に掲げる業務の方策を決定する。</p> <p>3 本部会議に議長を置き、本部長をもって充てる。</p> <p>4 議長は、本部会議を招集する。</p> <p><省 略></p>
<p>山口大学地域未来創生センター規則</p>
<p>(目的)</p> <p>第2条 センターは、地域社会との多様な連携の推進及び各部署における地域連携活動の情報の集約を行い、もって国立大学法人山口大学(以下「本法人」という。)の知的資源の地域社会での有効な活用を図り、地域の課題解決、地域の「知」の創造と継承及び地域社会の創生に資することを目的とする。</p> <p>(業務)</p> <p>第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の業務を行う。</p> <p>(1) 地域連携に係る企画、立案、調整及び実施に関すること。</p> <p>(2) 地域からの相談窓口及び学内外の組織との相互連携に関すること。</p> <p>(3) その他センターの目的を達成するために必要なこと。</p> <p>(職員)</p> <p>第4条 センターに、次の職員を置く。</p> <p>(1) センター長</p> <p>(2) 副センター長</p> <p>(3) センター主事</p> <p>(4) センター所属の契約専門職員</p> <p>(5) その他必要な職員</p> <p><省 略></p> <p>(センター主事)</p> <p>第7条 センター主事は、原則として本法人の教授、准教授又は講師のうちからセンター長が指名した者をもって充てる。</p> <p>2 センター主事の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、センター主事の任期の末日は、当該センター主事を指名したセンター長の任期の末日以前とする。</p> <p>3 センター主事に欠員が生じた場合の後任のセンター主事の任期は、前任者の残任期間とする。</p> <p>(地域未来創生戦略会議)</p> <p>第8条 センターに、山口大学地域未来創生センター地域未来創生戦略会議(以下「戦略会議」という。)を置く。</p> <p>2 戦略会議は、本法人の地域連携の推進に資する事業の企画・立案並びにセンターの管理及び運営に関する重要事項について審議する。</p> <p>3 戦略会議は、次の委員をもって組織する。</p> <p>(1) センター長</p> <p>(2) 副センター長</p> <p>(3) センター主事</p> <p>(4) センター所属の契約専門職員</p> <p>(5) 企画戦略部長</p> <p>(6) 国際・地域連携課長</p> <p>(7) その他戦略会議が必要と認めた者</p> <p>4 戦略会議に議長を置き、センター長をもって充てる。</p> <p>5 議長は、戦略会議を招集する。</p> <p>6 議長に事故あるときは、副センター長が、その職務を代行する。</p> <p>7 戦略会議が必要と認めたときは、委員以外の者を戦略会議に出席させることができる。</p> <p>(専門部会)</p> <p>第9条 センターの事業に関する事項を審議するため、専門部会を置く。</p> <p>2 専門部会に関し必要な事項は別に定める。</p>

(出典：国立大学法人山口大学地域未来創生戦略本部要項及び山口大学地域未来創生センター規則)

資料B-1-④-3：平成27年度地域未来創生センター活動方針及び実施事業(抜粋)

<p>平成27年度地域未来創生センター活動方針</p>
<p>◆はじめに</p> <p>山口大学は、「発見しはぐくみかたちにする 知の広場」を理念とし、地域の基幹総合大学として教育・研究及び社会貢献を行うことを目標としている。地域未来創生センターは、「地域未来創生戦略本部会議(本部長：学長)」及び「地域未来創生戦略会議(議長：地域未来創生センター長)」で策定された方針・企画に基づき、本学の地域連携活動の窓口として、広く地域との良好な関係を構築しつつ、地域社会の期待に応える活動を推進する。</p>

◆地域の『知』の拠点としての機能強化を図るための施策

(第二期中期計画・明日の山口大学ビジョン 2015)

地域社会との多様な連携を推進するために、これまで地域連携推進センターが主体となって、地域連携事業の拡大を図ってきた。地域未来創生センター(以下「センター」という。)は、これらの経験・実績をもとに本学の地域連携活動をさらに充実させ、これまで以上に本学が地域の『知』の拠点としての役割を果たし、「地方創生」の牽引に資するよう以下の項目を基本的なスタンスとし、「地域連携活動」、「生涯学習活動」及び「地方創生支援活動」に取り組む。

- (1)事業実施後の検証を確実にし、次の事業計画に反映させる
- (2)量よりも質の向上を図る
- (3)センター事業と各部署事業について、双方向からの情報提供、情報共有ができる仕組みを継続する
- (4)本学の特色ある実施事業は形骸化させない

1. 地域連携活動【中期計画, 年度計画全般】

本学の知の還元・普及もしくは活用を通じた、本学と自治体、企業および各種団体と実りある連携を構築し、山口に住む人々の生活や文化の向上と地域の産業、経済の活性化や発展に寄与する。

(1)連携体制、連携協働事業の実質化と検証

地域の自治体・企業との包括連携、協議会に関して、自治体の政策、施策、企業の事業への貢献度を含めた自己評価を行い、必要に応じて見直しを図る。

(2)地域との連携事業の発掘

本学と地域の交流を通じて、地域と連携協働する仕組み(ネットワーク)を構築し、学内各部署と協力して地域の課題解決を果たすための、今後、本学が取り組むべき事業を発掘する。

(3)平成 27 年度に特化した事業【年度計画】

- ①新たな地域との交流会として実施した「地域創生キャラバン in やまぐち」を県内他地区で行う。
- ②市民団体等との連携を強化し、地域活性化に貢献する新たな連携事業を実施する。
- ③地域の人材育成のための取り組みを開始する。

2. 生涯学習活動【中期計画, 年度計画全般】

生涯学習活動の提供を通じて、本学に蓄積された教育・研究に基づく「知」を地域に還元・普及する。

センターが実施する生涯学習活動の3本柱は、「公開講座」、「開放授業」及び「出前講義」であり、このうち、公開講座及び開放授業は、本学の「知の広場」を創造する活動として重要である。【別掲】

3. 地方創生支援活動【明日の山口大学ビジョン 2015】

(1)地域課題解決のためのシンクタンク機能の拡充

地方自治体からの地方創生に関する相談窓口及び学内外の組織との橋渡し機能を有することで、地域の課題の発見及び地域情報を集積し、地域課題の解決のための本学のシンクタンク機能としての拡充を図る。

(2)本学の地域連携活動の学内への情報提供と学内各部署における地域連携活動の情報を集約するために全学から主事を選考し、センターと各部署(9学部, 3機構)双方における情報を共有する。

活動方針に基づく平成 27 年度地域連携活動実施事業

1. 地域の自治体、博物館、企業、公私立大学等との連携活動を強化する。

(1)包括的連携・協働体制等を継続する。

- ①山口県との包括連携協定に基づく連携・協力(H14.4.1 要項制定, H27.2.27 地方創生に関する協定締結)
 - ・連携推進協議会若しくは相当するものを開催する。
 - ・地方創生に関する取組について協議を行う。
 - ・第 23 回世界スカウトジャンボリーの実施に関する協力を行う。
- ②山口市との包括連携協定に基づく連携・協力(H17.9.28 協定締結)
 - ・山口市から地域連携コーディネータを派遣する。
 - ・連携を強化し、連携事業を推進する。
 - ・連絡推進協議会若しくは相当するものを開催する。
 - ・「調整会議」を開催し、双方の実質的な課題解決策を検討する。
 - ・共同事業として、サテライトキャンパスの開設を企画実行する。
- ③宇部市との包括連携協定に基づく連携・協力(H16.12.21 協定締結)
 - ・「緑と花と彫刻の博物館」を活用した連携・協力事業に関する申し合わせに基づき、事業を実施する。(H27.3.1 申し合わせ制定)
- ④美祢市との包括連携協定に基づく連携・協力(H26.3.5 協定締結)
 - ・連絡協議会を開催する。
 - ・理学部を主体とした連携活動を支援する。
- ⑤周防大島町との包括連携協定に基づく連携協力(H27.1.21 協定締結)
 - ・連携協力推進のための体制(協議会、部会等)を構築し、国際総合科学部を主体とした連携活動を始動する。
- ⑥株式会社山口銀行との包括連携協定に基づく連携・協力(H16.11.10 協定締結)
 - ・協議会の実質化を図り、産学公連携センターとの連携体制の構築を検討する。
- ⑦放送大学との包括連携協定に基づく連携・協力(H22.11.15 協定締結)
 - ・本協議会の主管部署を大学教育機構へ移管することを検討する。

- ⑧防府市教育委員会との連携・協力
 ・連携協働に関する申し合わせに基づき、事業を実施する。(H26.10.1 申し合わせ制定)
- ⑨大学コンソーシアムやまぐちへの支援
 ・運営委員会及びFD・SD部会を運営し、コンソーシアム事業推進を支援する。
 ・本学が主体となり、コンソーシアムとの共催で実施する事業に協力する。
- <以下省略>

(出典：地域未来創生センター作成)

資料B-1-④-4：地域貢献活動に対する自己点検・評価の状況

http://committee.ue.yamaguchi-u.ac.jp/New_HomePage/26nenndo-hakusyo.pdf

(出典：本学 Web ページ「山口大学活動白書（平成 26 年度版）」(441～452 頁))


資料B-1-④-5：地域貢献活動の実施体制の変遷

年月日	沿革の詳細	設置(再編)目的・事業内容等
H15.4.1	エクステンションセンターの設置	<p>本学における社会貢献活動の対外窓口を一本化し、全学が一体となって組織的、体系的な活動を行うため、大学教育機構に広報宣伝企画部、大学情報サービス部及び社会教育開発部で構成するエクステンションセンターを設置した。</p> <p>【事業関係】 公開講座や特別講演会(平成 15 年度 1 回, 17 年度 1 回開催)などの生涯学習の場と機会の提供、高校への出前講義をはじめとした高大連携事業などの企画と実施に取り組んでいる。さらには山口市・宇部市・防府市・周南市の各教育委員会生涯学習課と連携し、自治体が主催する各種の生涯学習事業にも企画の段階から協力している。</p>
H20.4.1	社会連携本部戦略の設置 (大学教育機構改編)	<p>学長を本部長とする社会連携戦略本部を設置し、エクステンションセンターを大学教育機構から独立させ、学長直属のセンターとした。</p>
H25.4.1	地域連携推進センターの設置	<p>「地域連携室」及び「エクステンションセンター」を統合し、「地域連携推進センター」を設置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター長は、副学長が兼任 ・センター長の下に副センター長を配置 ・全学部及び機構から主事を選出(11 名) ・地域連携の推進に資する事業の企画・立案等を審議するため「地域連携推進センター運営委員会」を置き、構成員は全主事、学長戦略部長及び国際・地域連携課長とした。 <p>【組織再編のポイント】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. センターの役割をより明確にするために、名称を「地域連携推進センター」とする。 2. センターを専門職員の組織にすることで、より効率的な運営が行える。 3. 教員を他に配置することで、より適正な資源配置となる。 4. エクステンションセンターと地域連携室を一体化することで、指揮命令系統が確立される。
H27.4.1	地域未来創生センターの設置	<p>センターの役割として、地域の課題解決、地域の「知」の創造と継承及び地域社会の創生に資することとして、地域連携推進センターを地域未来創生センターに改め、また、地域創生アドバイザー(COC コーディネーター・客員教授)を新たに配置した。</p>

(出典：大学評価室作成)

資料B-1-④-6：知の拠点大学による地方創生推進事業の概要

地と知の好循環が やまぐち地域を創生する

平成27年度大学教育再生戦略推進費 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業COC+ **やまぐち未来創生人材育成・定着支援事業** 

産官学の密接な連携及び積極的参画で整備する教育プログラムによって、**地域の次世代を担うやまぐち未来創生人材を育成し、県内定着に導く。**

【山口地域から集約された課題】 少子高齢化、生産年齢人口減少、若年層(特に女性)の流出、地域衰退

【事業推進体制】

産学 Plan (責任者: 国際・地域連携副学長) Do 教育

地域未来創生戦略本部

地域未来創生ワンストップ窓口

教育プログラム開発委員会

やまぐち地域創生ネットワーク会議

Act 事業協働機関 Check

※3CDが事業協働機関と地域をつなぎ、事業を確実に推進

事業目標

(1) 山口県の歴史や特色などを学習、理解した学生を増やすことにより卒業生、修了生の山口県内企業への就職率を本事業終了年度までに、平成26年度に比して10%増加させる。

(2) 事業協働機関の学生に対して起業や創業者の種別的な支援を行い、本事業終了年度までに、起業8件(年間1~2件)を目指し、これによる新規地域雇用創出数(23名増)を確保する。

達成するために何をどうするのか?

①やまぐち未来創生人材育成プログラムの設計と実施 (Yamaguchi Frontier Leader, YFL)

②やまぐち就職支援マッチングシステムの構築と利用

③就業力向上促進プログラムの開発と実施

④女性による起業支援を中心とした若年層による起業支援の実施

やまぐち地域を創生する **6つの力を強化**

県内自治体・企業に対するヒアリングによって明らかとなった「やまぐち地域が若者に求める6つの力」をカリキュラムに反映する。

①やまぐちスピリット 地域行政・経済・歴史を理解し活用できる力

②グローバルマインド グローバルな視点で何事にも誠実に取り組む力

③イノベーション創出力 各種情報を活用してイノベーションを起こす力

④協働力 コミュニケーションを保ちながら協働できる力

⑤課題発見・解決力 自ら率先して課題を発見し、解決できる力

⑥挑戦・実践力 専門知識を活かしてチャレンジできる力

やまぐち未来創生人材育成プログラム

YFL認定

STEP 01 成果

STEP 02 実践

STEP 03 涵養

STEP 04 発見

成果達成の後、履修証明プログラム やまぐち未来創生リーダーの認定

YFL認定

◎課題解決型PBL研究
★地域協働インターンS (サービス型)
★企業協働インターンS (アントレ型)

◎山口と世界
◎やまぐち行政・経済
◎キャリア入門
◎知財教育
◎サービス入門
◎地域協働型知財創造論
◎実践的社会調査法

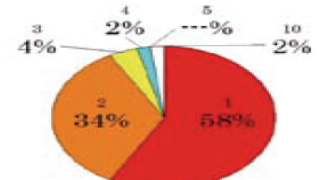
◎は必修科目、★は選択必修、左記①~④の力を各科目に反映

(出典：地域未来創生センター作成)

資料B-1-④-7：「熟議 in やまぐち」アンケートと結果

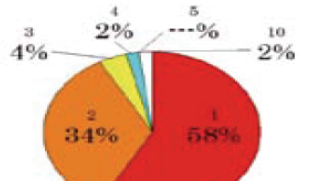
2. 本日参加された満足度をお知らせください。

1 とても満足
2 まあ満足
3 どちらともいえない
4 やや不満足
5 とても不満足
10 未回答



9. 山口大学への親近感もしくは距離感は変わりましたか? (○はひとつだけ)

1 とても親近感をもった
2 少し親近感をもった
3 変わらない
4 少し距離感をもった
5 とても距離感をもった
10 未回答



6. 本日の熟議を受けて、今後どのようなことをやってみたいと思いましたか?

(熟議)

- ・ 熟議を自社内でもやってみたい。
- ・ 地域の社会人と学生、親と子で熟議をやりたいと思いました。
- ・ 熟議のような話し合いの機会を設けたい。
- ・ 熟議の手法を多くの場で広めるといい。
- ・ 今回のやり方を使ってみたい。
- ・ ディスカッションで積極的に議論を…
- ・ 学生の育成の手法として取り込みたい。
- ・ かまえて発信しなくても、このような機会はどんどんもうけるべきだと思った。

10. ご感想・ご意見等があればご自由にご記入ください。

(継続)

- ・ おそらく次の課題は、このような取り組みの継続性の確保であり、さらには、何らかの成果が得られれば、もっと良いと感じます。
- ・ 積み重ねて、熟成させることを必要に感じる。継続の検討をしてみても、いかがでしょう。
- ・ このやり方を繰り返すことにより、議論の運営がより向上すると期待される。
- ・ より多くの幅広い分野の人たちが参加できるよう広げていただきたい。
- ・ 大学の先生、研究者とざっくばらんに話ができる機会が増えたら良いなと思いました。
- ・ このような熟議が今度は学生だけでも開かれるとよりよいものになると思う。
- ・ 次は、学生を巻き込んで大きくなると良いですが、彼らも一見、バラバラに見えますが、現状を良くしたいというベクトルは、教員よりもしっかりしているかも知れません。


(出典：「熟議 in やまぐち」報告書)

資料B-1-④-8：ティー・タイムセミナー in 知の広場

山口大学・受講生の集い

～ティータイム・セミナー in 知の広場～

山口大学公開講座、開放授業をご受講いただきありがとうございます。このたび、受講された方々の交流の場として「受講生の集い」を開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。ご友人もご参加いただけますのでお誘いください。



日時：2014年3月10日(月)
13時30分から15時まで

＜会場＞山口大学吉田キャンパス 大学会館会議室
＜会費＞300円/人(当日集めさせていただきます)
※事前のお申し込みが必要です(3月5日(水)まで)

＜内容＞
交流会
お茶とお菓子をお召し上がりいただきながら、講座体験を振り返り、他の参加者との交流をお楽しみいただけます。受講生目線からの新たな情報が得られることと思います。また、公開講座担当講師も参加しますので、講座裏話を聞くことができるかもしれません。

★公開講座「小麦栽培から始めるパンづくり」で使用しています山口県産小麦「せとぎらら」を使ったパンのご試食を準備いたします。
★2014年度公開講座・開放授業に関する情報も提供いたします。

(出典：地域未来創生センター作成)

資料B-1-④-9：公開講座のアンケート結果の周知

平成26年11月10日

【参考】 昨年度の受講状況及び受講生へのアンケート調査の結果についてお知らせします。

山口大学教職員 各位

地域連携推進センター長
数 達 己

平成27年度「公開講座」企画の募集について(依頼)

本学教職員の皆様におかれましては、平素から地域連携推進センターの活動にご理解、ご協力いただき感謝申し上げます。地域連携推進センターでは、大学の地域貢献活動の一環として、一般市民向けの公開講座を開講しております。このたび、平成27年度公開講座を下記のとおり募集いたします。研究成果の地域社会への公開及び還元のひとつの手段として「公開講座」をご活用いただき、積極的な講座企画をお待ちしております。

＜応募方法＞
下記のWEB登録画面から、講座内容等必要事項をご入力ください。
【登録画面】
<https://ds26.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~exten/po-login/kouza/>
なお、予算申請の都合上、経費積算についてはできるだけ正確にご記入をお願いいたします。ご不明な点はお気軽にお問合せください。
【入力時の注意事項と方法】
入力の際は、必ずお読み願います。
http://www.ext.yamaguchi-u.ac.jp/po-login/kouza/kouza_touroku_manual.pdf

【締め切り】 平成26年12月12日(金)です。
(学外で講座開講を希望する方は、12月5日(金)まで)

＜社会貢献奨励研究費について＞
平成19年度から公開講座を担当する教職員に対しては「社会貢献奨励研究費」を支給することが決定されました。これにより、公開講座担当1時間につき6,000円の「社会貢献奨励研究費」が研究経費として配分されます。学外講師については、従来通りの基準で謝金が支給されます。

＜講座開設をご検討の先生方へ＞
これまで講座を開講された経験のない教職員の相談もお受けいたします。「公開講座を開講してみたいが、どのような準備が必要か?」「自分一人が企画・開講するのは不安であるが、他の先生と一緒にの機会があれば加わってみたい」「地域連携講座はどのように進めていけばよいのか?」など、どんなことでも結構ですので、どうぞ遠慮なくご相談ください。

＜相談・申込み先＞
地域連携推進センター主事
富平美波(人文)、吉村誠(教育)、齋藤英智(経済)、堀学(理)、中村浩士(医)、麻生稔彦(工)、高橋肇(農)、下田宙(共同獣医)、林透(大学教育機構)、辻多聞(大学教育機構)、長柳実(大学研究推進機構)、杉井学(大学情報機構)

地域連携推進センター事務局(国際・地域連携課)
平岡朋子、小室和輝、河村有梨(内線 5059、5957)
E-mail: chiki@yamaguchi-u.ac.jp

1. 今後、受講を希望する講座について

順位	分野	キーワード
1	歴史・文化・民俗・考古	山口県の歴史、郷土史、山口の文化、世界の歴史、民俗(風習)、防府の歴史、世界遺産
2	音楽・芸能・美術・ものづくり	音楽史、美術史、陶芸、ガラス、水彩、木工、美術館めぐり
3	哲学・心理学・宗教	西洋哲学史、臨床心理学、カウンセリング、世界の宗教、日本の仏教・神道、
4	医学・保健・看護・福祉	生活習慣病、認知症、健康づくり、地域福祉、終末医療、最新の研究
5	語学・外国語	英語、言語学、スペイン語、中国語
6	文学・文芸	山口の文学、比較文化、古典文学、文学史、俳句、外国文学、中原中也
7	自然保護・環境問題	環境汚染、野鳥保護、山口の自然、自然観察、地球温暖化
7	政治・経済・経営・法律	憲法、身近な法律、日本経済のゆくえ、
8	物理学・科学・生物学・地球科学	地球科学、地質学巡検、宇宙、気象学、工業化学、社会人になって役立つ数学・物理
8	国際交流・国際協力	留学生との交流、異文化交流、ホームステイ
9	コンピュータ	タブレット端末、インターネット
10	獣医・農学	野菜づくり、地産地消、野生動物との共存

※「山口の〇〇に関するもの」、「山口の〇〇について」等、山口に関するものの要望が強く、関心が高いことが伺えます。

2. 受講しやすい場所及び日時

(1) 受講しやすい場所

区分	人数
大学キャンパス	378
市内の中心地	133
駅の近く	39
その他	38

(2) 受講しやすい曜日

区分	人数
土日の昼間	341
平日の昼間	255
平日の夜間	95
土日の夜間	50

3. 受講生の年齢及び職業

(1) 年齢

区分	人数
10歳代	11
20歳代	15
30歳代	28
40歳代	66
50歳代	107
60歳代	219
70歳代	84
不明	14

(2) 職業

区分	人数
無職	150
専業主婦	118
会社員	83
その他	71
自営業	29
公務員	22
生徒・学生	18
農業	13

※50歳代以上の方、とりわけ60歳代の方の受講が多く、職業も無職及び専業主婦の方で半数を占めており、平日の昼間でも受講が可能なのが伺えます。

(出典：地域未来創生センター作成)

- 44 -

別添資料

別添資料B-1-④-ア：「地域連携推進センターの現状と課題－地域未来創生センターの始動に向けて－」

【分析結果とその根拠理由】

地域未来創生センター等において、学内の地域貢献活動やアンケート調査結果を集約している。毎年度の取組の自己点検・評価を実施し、「山口大学活動白書」等で総括している。これらを踏まえて、地域貢献活動の実施体制の見直し、「地域と山口大学との交流会」から「地域創生キャラバン in やまぐち」への展開、また、受講生の集いを通じた公開講座等へのニーズ把握の取組を行っている。

以上のことから、改善のための取組が行われていると判断できる。

(2) 目的の達成状況の判断

四つの観点について、適切に対応できており、目的の達成状況は良好であると判断できる。

(3) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・公共団体6団体等の計18の組織と包括的連携・協力協定を締結し、地域の発展に寄与することを目的とした取組を行っている。山口県とは、地方創生に関する包括連携協定を締結し、山口市とは、相互の人事交流を行い緻密な連携活動体制を構築している。なお、山口県をはじめ協定を締結した市町の審議会委員に多くの本学教員が参画し、教育、研究、医療・福祉、文化、経済、防災・安全、地域振興等の幅広い分野で連携・協力している。
- ・山口銀行及び(株)MOT 総合研究所と包括的連携協定を締結し、日本初の銀行及び県内企業出資のクラウドファンディング運営会社の創設に協力している。この中で、本学はイノベーション人材育成プログラムを提供し、創業者教育を推進することで地域の活性化に取り組んでいる。
- ・本学の特徴の一つである知的財産教育を活かし、地域における生涯教育活動の一環として、また、知的財産教育の普及による地域経済発展を目的として、地域の教育機関への知財教育支援や、行政機関、企業等向けの知財セミナーを実施している。また、図書館を中心に、県内大学博物館・図書館との連携(山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携)により、学術資産・成果の知的情報発信も行っている。
- ・県内唯一の特定機能病院である医学部附属病院は、あらゆる分野の疾患を総合的に診療し、平成23年度から運営している山口県ドクターヘリの基地病院として、24時間体制で重症患者の治療に対応している。また、「がん診療連携拠点病院」及び「山口県肝疾患診療連携拠点病院」に指定され、地域医療機関と連携し高度な医療の提供を行っており、安全・安心な地域社会の実現に貢献している。

【改善を要する点】

該当なし